探究的な学習の在り方に関する地域推進事業　　福山市立一ツ橋中学校区【一ツ橋中学校，引野小学校，長浜小学校】

研修主題　「　主体的に問いを見出し，自己探究を通して，資質・能力の向上を図る　～探究は自分の生活の中に～　」

探究って どうやるの？

○探究のプロセス（探究サイクルを意識した学習）

なぜ？どうして？ 課題の設定

・子どもと教材との出会いを大切にする
・体験活動等を通して，課題意識をもつ

→子どもの課題に対する意識のズレや疑問を自身の課題に繋げる支援

夢中になれる，主体的な情報の収集

・体験を通した感覚的な情報収集
・ＩＣＴを活用した情報収集

→子どもの「知りたい」などの主体性を引き出す支援

もっと知りたい！ まとめ・表現

・まとめは相手意識，目的意識を明確に
・各教科で身に付けた表現方法を活用

→新たな課題の設定へ繋げるため，活動を振り返る支援

協働し，思考を深める整理・分析

・子ども自身で情報の吟味・精選
・対話の充実
（子ども間，子どもと教師間）

→目的のための情報の整理や，考えを広げ深めるための支援

探究的な学習を意識した
単元開発

大切にしたい３つの視点

○子どもの声　⇒
・子どもの「学びたい」，「知りたい」を課題に
・子どもの声を聴く（つぶやきを拾う・待つ）

○机からの脱却　⇒
・本やパソコンで分かる情報だけに頼らない
・校外や体験の中に本物につながる情報がある

○本物に触れる　⇒
・課題を自分事につなげる
・外部機関との積極的な連携

本物とは，児童生徒にとって「充実した活動」であり「資質・能力の育成」を実現するもの

○資質・能力の育成（ルーブリックの作成）

評価は どうするの？

中学校区で育成を目指す資質能力
○　探究する力　→　課題発見・解決力
○　様々な人達と協働する力　→　対話する力，自己・他者理解力，自己効力感（各校）
○　自分の学びを見つける力　→　学びに向かう力

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①「概念的な知識の習得」 ②「自在に活用することが可能な技能の獲得」 ③「探究的な学習のよさの理解」	①「課題の設定」 ②「情報の収集」 ③「整理・分析」 ④「まとめ・表現」	①「自己理解・他者理解」 ②「主体的・協働的」 ③「将来展望・社会参画」

校区内で共通して育成を目指す資質・能力を決め，単元の評価規準を作成

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
③「探究的な学習のよさの理解」	①「課題の設定」 ③「整理・分析」	②「主体的・協働的」

子どもの声

単元名　「　地域活性化　」（福山市立引野小学校　６年生）

○引野小学校の児童数から引野町について考えよう

児童数の推移グラフ

「引野小学校の児童数はこのままだとどうなるのだろう？」

減り続けて，引野小学校が無くなってしまう。

「引野小学校の人数が減るという事は…」

引野町も人がどんどん減って合併して，引野町は無くなる。

課題設定

【単元課題】
引野町の魅力を発信して，たくさんの人に引野町に来てもらおう！

○引野町の魅力を調べてみよう！

パソコンで調べてみたらお店はある！引野の魅力ってそれだけなの？

実際に町を歩いてみよう。住んでいる大人にも聞いてみよう。　情報収集

働いている人が素敵だから，お店が魅力的だと言えるのでは？
素敵な場所があるのに，知らない人が多いのはもったいないな。　整理分析

たくさんの人に知ってもらうためには SNS（YouTube, Instagram）を使って魅力を発信しよう。　まとめ表現

お店の方へのインタビュー

ＳＮＳで発信

子どもの「やりたい」を単元計画に入れることで，子どもたちの課題への向き合い方が変化し，積極的に行動するようになった。

子どもたちの「やりたい」が，目的につながるものか確認するため，活動前，活動中，活動後等に子どもたちと目的を共有する時間を設定した。

机からの脱却

単元名　「　未来に伝える『長浜の伝統』　」（福山市立長浜小学校　６年生）

○地域の方の話を聞き，自分にできることを考えよう！

盆吉の会の方からの話

長浜音頭を守る盆吉の会の皆さんから，「『長浜音頭』を踊れる人が年々減り続けている。小学生が踊れるように広めて欲しい」とミッションを頂きました。

全校で踊れるようにしたいので，まず踊りを教えてください。　課題設定

【単元課題】
長浜学区の伝統「長浜音頭」を習得し，秋フェスティバルで全校に広めよう！

踊りの指導

○思いを受け継ぐ準備をしよう！

情報収集

下級生に伝える前に，実際に保護者の方・学区の先生方に教える体験を通して，新たな課題が見つかりました。

分かりやすく伝えるためにどうしたらいいかな？

踊り方の説明書，動画などの資料の改善，練習方法や練習時間について話し合い，休憩時間等を使い，全校に伝える活動を行いました。　整理分析

秋フェスティバル

練習時間確保のため，休憩時間を利用しよう。
丁寧に分かりやすく教えるために，グループを細かく分けて教えよう。　まとめ表現

秋フェスティバルでは，全校・地域の方と一緒に運動場で手作りうちわをもって「長浜音頭」を踊りました。盆吉の会の方から，感謝の言葉を頂きました。

次は今度入学してくる子たちにも広めたいな。　課題設定

実際に地域の方から話を聞き，一緒に取り組むことで，子どもたちが自分事として課題を持つことができ，試行錯誤しながら取り組むことができた。

つけたい力を明確にし，単元計画を立てるが，子どもたちの実態から，目的の達成に向け，活動の内容や順番を臨機応援に変えていく必要がある。

本物に触れる

単元名　「　自己実現　」（福山市立一ツ橋中学校　３年生）

○将来の自分に対して，今の自分には何が必要なのかを考えよう！

僕は将来何がしたいのかなぁ。
仕事って調べてもよく分からないなぁ。

何がしたい？どうすれば自分に繋げられる？

【単元課題】　自分の将来を本気で考えるには何が必要なのか？

・直接働いている人に話が聞きたい。・その会社に行き，体験したい。
・高校や大学を訪問し，通学している人に話を聞きたい。　など　課題設定

○オンライン対談（プロバスケ，警察，俳優，看護師，建築家）　○学校で対談（社長業）
○修学旅行（立命館，理容・美容専門学校，デザイン専門学校）　○修学旅行（京都企業訪問，京都体験学習）
○メールで質問（カープ選手）　○企業訪問（福山市 17 か所訪問）　○高等学校説明会

○本物に触れよう！自分ごとに繋げよう！

情報収集

子どもの知りたいに応える！
↓
外部連携の充実！

メール，オンラインや直接お会いしての対談など

実際に話を聞くと，自分が調べたり，考えたりしたことと違っていた。就職や進路を決めた際には，どの方も，しっかりと自分と向き合うことをされていた。　整理分析

自分の将来について考える時に必要なことは，「自己理解」と「他者理解」だと感じた。自分を知り，人や物を知ることで，将来に繋がることなど価値観を広げることができた。　まとめ表現

話を聞きたい外部の方から聞くことで，新しい価値観に触れ，より深く自分の進路について考えることができた。

一人一人が本物の情報に触れるために，子どものつぶやきや一人一人の考えを大切にし，希望が叶うよう様々な機関に働きかける必要がある。

カリキュラム・マネジメントの充実

～探究的な学習の歩み、指定3年間をまとめて～

A　P　C　D

Action 現状把握・対策・改善

・学年間で学習内容が重複
・他教科等との関連が図れていない
・児童生徒の実態の未把握
・探究のサイクルの意識不足（指導体制の充実の必要性）
・どのように防災教育に取り組んでいるかが不透明
・「表現」に関する学習意識の伸び悩み　等
↓
教育課程における位置づけを明確にするとともに、一覧表等で内容を整理し、教員の意識向上を計画的に促進する必要がある。

Plan 計画

・探究的な学習を進める上での課題と方策を整理（再検討）
・学年間の系統性を整理及び修正
・生活科及び総合的な学習の時間と各教科等との関連を整理
カリキュラムマップや総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画等への反映
・呉版年間指導計画を活用した各教科等の関連の見える化
・小中合同研修（学園全体研修）において、PBL や問いに関する理論研修や授業づくりに関する研修、各教科の担当教員間で特に重点を置く単元や領域を検討する研修を計画
・防災教育に関連する単元や行事等を一覧化
・TT による指導体制の充実　等

Check 分析・評価

・学習アンケートの結果をもとにした児童生徒の探究的な学習に関する意識の分析
（質問項目の内容は広島県児童生徒学習意識等調査を踏襲）
・新しく設定したカリキュラムマップ及び全体計画・年間指導計画や防災教育一覧表等の点検
（次年度に向けた研修計画やカリキュラム・マネジメントの方向性を確認）
・持続可能な探究的な学習に向けた指導体制の点検

Do 実行

・整理した「課題と方策」をもとに、「データからの問い」「体験で終わらない取組」「他者との協働」「提案型のゴール」等を意識した授業づくりを行った。
・外部人材を積極的に活用し、学習の深化や取組の充実を図った。
（国立呉工業高等専門学校、学校運営協議会、地域団体　等）
・他地域の学校やNPO団体とつながり、学習の成果を他者に発信する機会を積極的に設定した。
・「本質的な問い」や「単元を貫く問い」等、教員の「問う力」を高めるための研修を行った。
・教員間の取組や困り感等を共有し、授業展開について考え合える研修を行った。
・1枚ポートフォリオを活用したり、探究のサイクルを意識して毎授業の振り返りシートを蓄積したりした。
・ルーブリックに基づく授業づくりと研究協議　等

本物の探究が　きっとそこにある

対話　探究　貢献

充実した活動

子供たち主導で大人を巻き込む！

「防災力アップ・プロジェクト」と題し、地域避難訓練を子供たち自身が計画。学校運営協議会にて提案後、自分たちが大人を巻き込み、手作りのプロジェクトを遂行した。防災力を「備え力」「情報収集力」「きずな力」と定義し、それぞれの力を高めるための取組として実施。参加対象の地域の方の自宅から避難所までの避難経路を子供たち自身で設定し、その道を地域の方と一緒に歩く中で、設定した経路の良し悪しや、災害発生当時の被害を確認しながら避難訓練を行った。訓練後は、地域団体の協力のもとで炊き出し体験を行った。地域に根ざし、現実的な課題の解決に向けた取組となった。

資質・能力の育成

呉市立天応学園

【学校教育目標】　かかわる　つながる　よく生きる

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業

3年間の取組をさらに詳しく知りたい方はこちらへ→

天応学園 HP

令和6年1月作成

探究的な学習を進める上での課題と方策の整理

課題	方策	
①探究課題が児童生徒自身のものとなっていない。	・探究課題に対し開いた問いづくり。 ・発達段階に応じた分類。	A
	・探究課題に係る基礎データの整理。 ・データから生み出す「問い」。	B
②目的が不明確。情報収集が形式化。	・実現したい姿を明確にし、その実現に必要な資源を検討しながらプロジェクトの立ち上げ。「問い」を追究するために、必要かつ適切な情報収集を選択・実行。	C
③学んでほしいことを児童生徒に順に与えている。	・体験で終わる取組の廃止。	D
	・「問い」の事前検討時に、児童生徒の発想を想定した対応策の準備。	E
④「まとめ・表現」の取組の停滞。	・積極的な失敗体験。	F
	・目的に応じた他者（専門家、行政、地域住民等）と協働する場。	G
⑤探究のサイクルが繰り返されない。	・提案型のゴール設定。	H
	・「問い」の階層の整理。	I

ルーブリックの活用

単元の初めに、設定したルーブリックを子どもたちと確認し、目指す姿を共有。単元の最後に、自己評価をさせることで、単元を通した自分の姿を俯瞰して考えさせることができた。

研究授業後の協議を、ルーブリックをもとに実施。実際に観察した子どもの姿をルーブリックに照らし、指導の在り方を検討した。

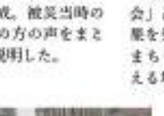
方策A 開いた問いづくり

学年始休業や夏季休業等を活用し、各学年の探究課題に対し、「どのような問いを立てれば児童生徒の思考を促すのか」「立てた問いが当該学年にふさわしい問いなのか」等を検討した。

方策B データの整理 データから生み出す問い

生徒自らがアンケート調査の内容を考えた。結果を課題設定に活用した。

保護者や教員といった身近な大人の意識調査を活用した。分析する中で、課題意識を高めることができた。



国立呉工業高等専門学校が行った、天応地区を対象とした調査結果を効果的に活用した。

方策C プロジェクトの立ち上げ

児童生徒の「やってみたい」や「こうしたい」を大切にして、学びを社会に還元できるプロジェクトを計画。遂行に必要なことや協力を得たい人などをチームで検討した。

プロジェクト名は、児童生徒が「やってみたい」「探究することが楽しみ」と思える“キャッチー”なネーミングを検討。目的や課題を明確にすることができた。

方策E 対応策の準備

学年団ごとにペアで、担当する学年で取り組む予定のことを共有。投げかける問いや児童生徒の反応を想定した対応策を検討した。

方策D 体験で終わらない

体験活動は情報収集の１つ

地域内で建設中の砂防ダムを見学し、分かったことをプロジェクトの計画や課題設定に活かした。

地域の防災力を向上させるプロジェクトの遂行に向けて、向上させるべき防災力を知るため、地域の主要避難所を見学した。防災力「備え力」チームは、この経験をもとに、地域合同避難訓練の実施を計画し、実施した。

災害時に避難所になる本校体育館にて、４年生の児童が防災宿泊体験を実施。「避難時に必要なこと」を知るため、寝食に必要なものを自分たちで用意。段ボールベッドなども体験した。体験から得た気づきをもとに対話を通して整理・分析。パンフレットにまとめ、地域に情報発信した。

「災害時の非常食」をテーマに、身近にあるものを活用した非常食を地域社会に提案しようと、地域ボランティア団体と協働して試作した。その体験を参考にしながら、作成事例やポイントなどをタブレットで動画にまとめた。

課題の設定

情報の収集

PBL 探究のサイクル

Project Based Learning

まとめ・表現

整理・分析

方策F 失敗体験

自分たちが考えたプロジェクトを学校運営協議会にて提案。委員の方から様々な指摘を受け、内容を再考しなければならない状況を経験させた。

被災した地域への支援を計画していたグループが、実際に役場へ電話すると、「被災から時間が経っているため、もう必要ない」と断られてしまう。タイミングの重要性を学んだ。

本校体育館で実施した防災宿泊体験にて、自分の予想に反して、用意した非常食をうまく作ることができない児童がいた。自分に合った非常食の選択や作り方を学ぶといった課題意識が生まれた。

方策I 問いの階層の整理

「本質的な問い」や「単元を貫く問い」等に関する理論研修を実施。問いに関する授業者の考え方を整理し、どのような問い方がどの階層の問いになり得るか、子供の本気の思考を促すかを検討したことで、質の高い問いの設定に近づけた。

呉版単元構想シートを活用し、学びをファシリテートできるよう、単元における探究のサイクルや各階層の問いを計画。計画段階から授業改善を単元構想レベルで協議したことで、ねらいが明確化され、児童生徒が深く考えるような単元構想を行うことができた。

方策H 提案型のゴール

西日本豪雨災害発生時の様子を今に残そうと、6年生の児童がミュージアムを作成。被災当時の様子を地図上で表したり、地域の方の声をまとめ、展示したりし、児童自らが説明した。

「天応マチづくり討論会」と題して、学びの成果を発表し、地域の方とまちづくりについて考える場を設定した。

他校とオンラインで交流し、自分たちが学び、まとめたことを発表。災害に強いまちづくりに向けて提案し合った。

「防災×SDGｓ」をテーマに地球温暖化を防ぐプラスチックの削減に焦点を当て、9年生が6年生に、Tシャツを使って作れるエコバッグ作成のレクチャー会を行った。

左記との関連でSDGsウィークを企画し、参加者にオリジナルステッカーを配付。

1年生が地域の年長児を対象に「おもちゃランド」を企画。園児が楽しめるおもちゃを試行錯誤して作成した。

新体育館棟の設備や建設に込められた思いを、来校者の方々に説明。調べまとめたことを、自分自身の考えとともに発信。

海外の防災学習者との連携授業を設定。7年生が、相手が知りたいと考えている防災に関する知識や、災害に強いまちづくりについての自分たちの考えをまとめ、発表した。

地域の幼稚園児に自作の防災絵本を作成し、読み聞かせを実施。地域の様々な年齢層へのアプローチの１つ。

地域の防災力向上を目指し、避難訓練を計画・実施。避難経路マップを自作し、地域の方と実際に歩きながら提案した。

防災に役立つ情報をまとめた防災カレンダーを作成。内容から構成まで子ども自身が考案し、地域に配付した。

方策G 他者との協働

異なる多様な他者との対話

地域ボランティア団体と幾度も意見交換を行い、自分たちの計画を実行可能な形に作り上げていった。

５年生が作成したスライドを８年生が添削・アドバイスするといった異学年での協働場面を設定した。

防災についての自分たちの計画を提案。市役所の担当部署の方の助言で、検討できていない部分に気づけた。

国立呉工業高等専門学校の学生と協働し、災害に強いまちづくりについて自分たちには何ができるかを話し合った。

左記での検討を具体的な取組につなげようと、地域の現地踏査をもとにした手作りハザードマップを作成。地域に情報発信した。

新体育館棟を設計された方と交流し、その設備や思いを地域にもっと知ってもらう取組を検討した。

竹原市立吉名学園

児童生徒が自ら求め、「学び」を創っていく

「自立した学び」への転換

児童生徒が「やってみたい」「なんとかしなければ」という思いや願いを基に目標や計画を立て、様々な困難や失敗と出合ったり、迷ったりしながらも、自ら学びを調整しながら課題を解決していく。私たちは、そのような「自立した学び」への転換を目指しています。

探究的な学習を生み出す
単元づくり５つのポイント

本気になる課題設定

自分、学校全体、地域社会にとって重要な課題と出合わせ、それを基にプロジェクトを立ち上げる。

思いや願いに基づく挑戦

児童生徒の思いや願いに沿って、活動を進める。思い切った活動・挑戦を進めることができるように、教師の支援は必要最小限とする。

高い壁との出合い

活動を進めていく過程で出合う高い壁（失敗・困難）を取り除かず、意図的に出合わせ、解決に向けて試行錯誤する場を設ける。

「本物」からの学び

一流の人や本物に敬意をもって学ぶことで、児童生徒は深い学びができ、よりよい生き方を考えることにつながる。

再挑戦の場の設定

失敗を失敗のままで終わらせるのではなく、再挑戦の場を設定することで、困難や苦労を乗り越えた先に得られる達成感や満足感を味わわせ、自信をもたせる。

児童生徒にとって充実した活動

資質・能力の確実な育成

一人一人の資質・能力を育てるための
資質・能力の設定と系統化

育成を目指す資質・能力の設定

知識及び技能
- ア　知識
- イ　技能（ICT活用力）

思考力・判断力・表現力等
- ウ　課題を発見する力・企画する力
- エ　活動を計画・推進する力
- オ　情報を収集する力
- カ　整理・分析する力
- キ　表現する力（プレゼンテーション力）
- ク　発想する力・工夫する力
- ケ　評価する力

学びに向かう力・人間性等
- コ　挑戦する力・改善する力・やり遂げる力
- サ　協働する力
- シ　将来を設計する力

- ス　英語力

第Ⅰ期から第Ⅳ期に分け、系統化

第１学年「がっこうをたんけんしよう ～とびだせ　がっこう　たんけんたい～」

「気になる」「行ってみたい」 → 学校探検

４月。入学してから２週間が経ち、これまでの学校生活を振り返る中で、学校の中に気になる場所やまだ行ったことがない場所があることが分かった。
そこで、学校を探検してみたいという思いをもち、単元を立ち上げた。

少人数のグループで思い思いに学校探検

少人数のグループで気になる場所や行ってみたい場所へ思い思いに行った。その中で、廊下を走ったり、黙って校長室に入ったりして、その都度、その場にいる先生から「どうすればよいと思う」と問われ、学校生活のルールについて学んだ。

一人一人が見付けたことを学級の友達に紹介

探検の際、各自の端末で気に入ったものを撮影していたが、児童の一人から「写真を見せたい」との声が上がった。それを受け、写真を見せて自分の発見を紹介し合った。さらに、鍵がかかっていて入れない場所があった等、困ったことを共有し、解決方法を考えて２回目以降の探検につなげた。

「先生の名前が分からない」 → 先生調べ

何度か学校探検を行い、写真を見て振り返る中で、先生の名前が分からないという困ったことが出てきた。そこで、先生を調べようと新たな課題が設定された。
先生にインタビューを行ったが、聞いた内容を忘れることがあり、メモの必要性に気付き、再度インタビューを行った。

学校マップの作成

学校探検や先生調べを通して分かったことを保護者の方に伝えたいという思いが芽生え、学校マップを作ることにした。写真を張り付けたりしてマップを完成させ、保護者の方に自分たちが発見したことを伝えた。

第６学年「吉名の祭りを復活させよう ～My・舞プロジェクト～」

地域の方の思い → 巫女舞・獅子舞の復活

修学旅行をきっかけに地域の歴史や伝統文化に興味をもった６年生が神社の方にインタビューを行った。その中で、地域の祭りで踊られていた巫女舞や獅子舞が無くなっていることを知った。
そこで、巫女舞や獅子舞を復活させて地域をにぎやかにしたいという思いをもち、単元を立ち上げた。

巫女舞・獅子舞の準備・練習

巫女舞や獅子舞の復活に向けて動き出そうとするが踊り方が分からない、獅子頭がない等の困難にぶつかった。そこで、解決の糸口となるよう本物の獅子頭を教室に置き、巫女舞や獅子舞の動画を見ることができるようにした。
獅子頭の簡単な構造に気付いた児童は長さを測り、段ボールや木材等を使って自分たちで獅子頭を作り始めた。また、動画を見ながら巫女舞や獅子舞の動きを分析し、練習を始めた。その後、獅子頭を完成させ、巫女舞も本物の衣装と道具を神社から借りて、練習を重ねていった。

神社でのリハーサル・改善

祭りの本番に向けて、神社の境内でリハーサルを行った。教室とは勝手が違い、上手く踊ることができず、また、長年舞を見てきた神社の方からこれまで気付かなかったことについて指摘を受けた。
その後、本番に向け、神社の方からいただいた指摘や自分たちの舞を見直して、改善点を考え、それを基に改善を図っていった。

地域の祭りで巫女舞・獅子舞の披露

地域の祭りで巫女舞や獅子舞を披露した。当日は多くの地域の方に舞を見ていただいた。
その後、保護者や地域の方から「感動した」「祭りを続けられる」等の声をいただいた。それが児童の達成感や手応えにつながった。

第７学年「野菜を自分たちで生産して販売しよう ～吉名産野菜生産販売黒字化プロジェクト～」

これまでの取組を基に、自分たちで目標を設定

昨年度の先輩が夏野菜の生産販売に取り組んだことを知り、自分たちもやってみたい、黒字にしてみせるという思いをもち、目指せ黒字１０万円という目標を設定し、単元を立ち上げた。

夏野菜の生産販売の結果は大赤字

地域の農家の方に協力を仰ぎ、夏野菜を育てた。
そして、育てた野菜を収穫し、自分たちで野菜の選定や袋詰めをしたりポップの設置を行ったりして、道の駅で販売した。しかし、結果は１万円以上の赤字になってしまった。

ジャガイモの生産販売で再挑戦

失敗の原因を分析したところ、苗や肥料の支出が多かったこと、単価が安い野菜が多かったことが分かった。その教訓を生かして、地域の特産物で、６０年前は日本一の高値が付いた吉名のジャガイモで再挑戦を図ることにした。今回も地域の農家の方に協力を仰ぎジャガイモを育て、約４００kgを収穫する豊作となった。また、広報が足りなかったことも課題として挙がったため、本物のチラシを分析し、ジャガイモの販売に向けて準備を進めた。

道の駅での販売 → 完売ならず

生産したジャガイモを道の駅で販売した。当日は多くの方にジャガイモを買っていただいたが、完売することができなかった。どうするかを話し合っていたときに、道の駅の駅長の方から駅前でイベントがあることを教えていただき、イベントで販売することにした。

イベントで完売 → その後

駅前のイベントで販売を行い、ジャガイモを完売することができた。前回はお客様に声をかけられなかった生徒が今回は積極的に声をかけることができた。
その後、来年度もジャガイモの生産販売がしたいという声が上がり、校長先生にお願いをして、８年生でも継続して取り組むことになった。

探究的な学びを支える 学校運営

理念を共有する

・様々な場面で学校の理念を伝え、職員のみならず、保護者、地域、児童生徒と理念の共有を図る。

運動会での学校長挨拶

学校運営協議会での熟議

教室・学校と外の世界をつなげる

・「高い壁」との出合いや「本物」からの学びの実現に向け、外部連携や授業者・児童生徒の要望を支援する。

地域の施設でのインタビュー

生徒が職場体験先を探す

やってみよう！ 本物の探究

大竹中学校区

大竹市ＰＲキャラクター
コイちゃん

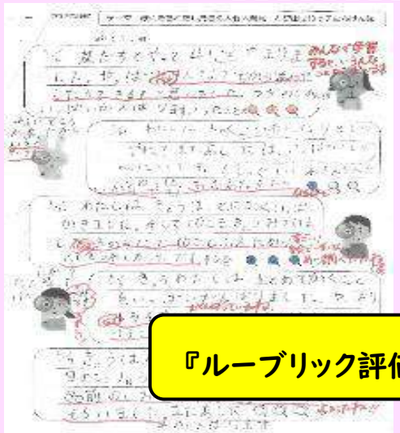
小中合同研究主題

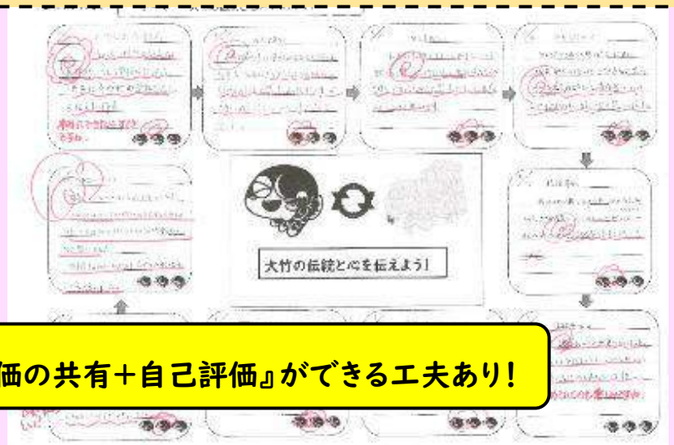
本質的な問いにせまる課題を主体的に解決しようとする児童・生徒の育成　～リフレクションを活用した探究的な学びの実現を通して～

リフレクションシートの活用

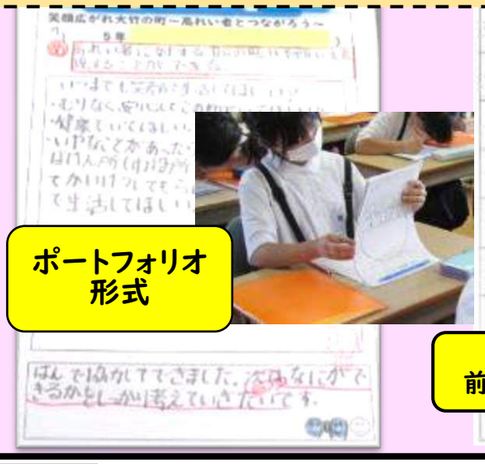
◆毎時間のリフレクション（振り返り）を大切にすることで，今の活動がゴールにどうつながっているかを考えながら主体的に学習を進めています。
◆リフレクションに書かれた内容を評価し，学びの価値づけをしています。

入門期の小学１年生は
絵と記号で！

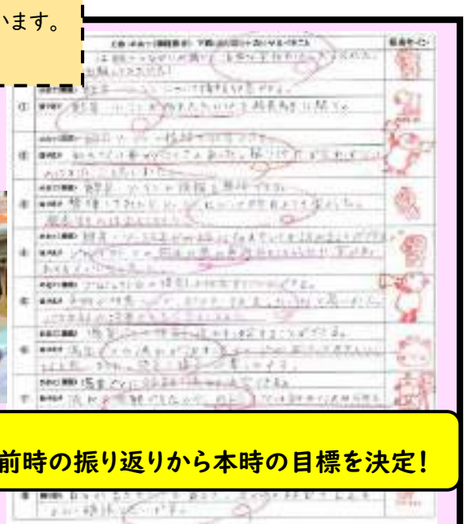




『ルーブリック評価の共有＋自己評価』ができる工夫あり！



ポートフォリオ
形式



前時の振り返りから本時の目標を決定！

PBLを参考にした単元開発

総合的な学習の時間　構想図

PBL とは『プロジェクト型学習』のこと
◆「答え（ひとつの解）のない問い」を扱う学習
◆実生活・実社会の課題を解決する学習
◆社会へ還元する学習

中学１年生 【大竹市活性化プロジェクト】
大竹っていいよね～！
～もう“通り道”なんて言わせない！～

小６　大竹市のふるさと納税商品案を大竹市に提案する

小学校での学びが活きる！

↓

中１　大竹市のために実現できることを考える

↓

ゲストティーチャーからのアドバイス

↓

商品開発を進め，文化祭で販売する

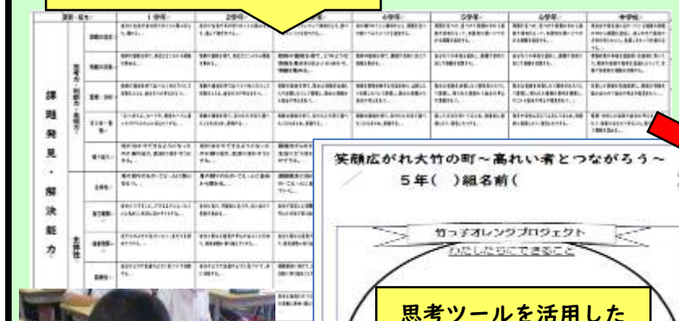
↓

“自分たちが大竹市のためにできること”実現へ！

詳しくはこちらから大竹中学校 HP へ

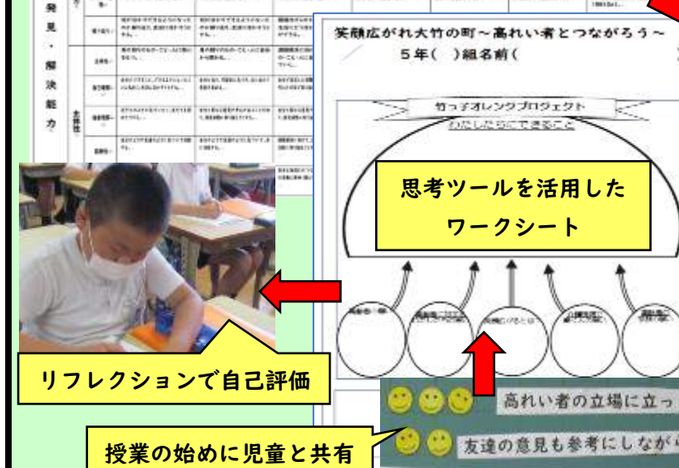
ルーブリックの活用

小中９年間の資質能力系統表

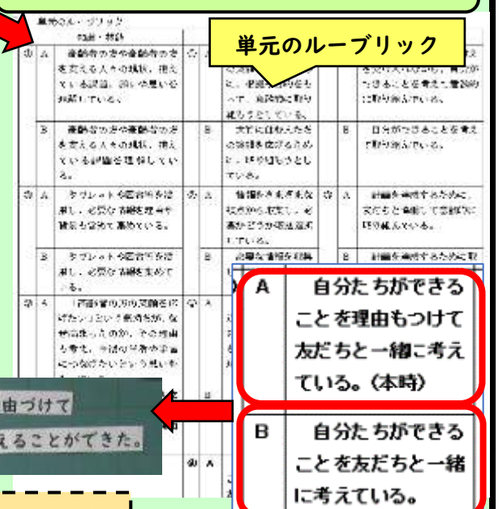


小学5年生　笑顔広がれ大竹のまち
～高齢者の方とつながろう～

リフレクションで自己評価



授業の始めに児童と共有



児童・生徒の資質能力の見取り，評価のためにルーブリック評価を活用しています。

詳しくはこちらから大竹小学校 HP へ

実践例

小学1年生

じぶんでできるよ
～かぞくスマイル大さくせん！ぼく・わたしにまかせて！～

本質的な問い
自分でできることは何だろう。

単元を貫く問い
家族のために自分でできることは何だろう。

経験

家庭で継続
日常化へ

小学2年生

うごく うごく わたしの おもちゃ
～竹小おもちゃランドへようこそ～

本質的な問い
みんなで楽しく生活するためにはどうすればよいだろう。

単元を貫く問い
みんなで楽しめるあそびを作り出すにはどうすればよいのだろう。

試行錯誤

1年生を
招待して交流

小学3年生

ぼくたち，わたしたちの大竹大発見
～大竹のおいしいものを調べよう～

本質的な問い
大竹のよさは何だろう。

単元を貫く問い
大竹の食べ物のよさを伝えるためにはどうしたらよいだろう。

ゲスト
ティーチャー

メニュー
考案

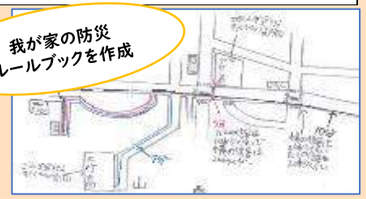
小学4年生

わたしたちの命を守ろう
～命を守る防災への第一歩～

本質的な問い
命はどうして大切なのだろう。

単元を貫く問い
災害から命を守るためにはどんな取組があるのだろう。

見学

我が家の防災
ルールブックを作成


小学5年生

笑顔広がれ 大竹のまち
～高齢者の方とつながろう～

本質的な問い
大竹のまちの人々を笑顔にするとはどういうことだろう。

単元を貫く問い
大竹のまちの高齢者の方を笑顔にするためにできることは何だろう。

ICTの活用

高齢者の方へ
思いを届ける

小学6年生

大竹の伝統と心を伝えよう
～大竹和紙を未来へつなごうプロジェクト～

本質的な問い
大竹のまちに愛着をもち，大竹のまちに誇りがもてるにはどうしたらよいか。

単元を貫く問い
大竹和紙の伝統や魅力を伝えるためにできることは何だろう。

体験

和紙の活用法
を考案

中学1年生

大竹っていいよね～！
～もう“通り道”なんて言わせない！～

本質的な問い
大竹のまちに愛着をもち，大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいだろう。

単元を貫く問い
大竹市を“通り道”と言わせないためにできることは何だろう。

ゲスト
ティーチャー

提案

中学2年生

「幸せあふれる大竹市」
まちづくり参画プロジェクト

本質的な問い
大竹のまちに愛着をもち，大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいだろう。

単元を貫く問い
「幸せあふれる大竹市」幸せづくりのために自分に何ができるだろうか。

体験

プレゼンテーション

中学3年生

伝われ！竹中の伝統！
～大竹中の伝統を伝えよう～

本質的な問い
大竹のまちに愛着をもち，大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいだろう。

単元を貫く問い
大竹中の伝統に対する思いをよりよく伝えるために，私たちにできることは何だろう。

ゲスト
ティーチャー

表現

小中9年間の本質的な問い

大竹のまちに愛着をもち，大竹のまちを誇りに思い・支える人になるためにはどうしたらよいか。

⑦福富型協働的な学び

本校では，小中一貫教育を生かした異学年集団や地域の人々との協働を通し，探究的な学習に取り組んできました。小学校第３・４学年，第５・６学年，中学校第１・２学年は複数学年で活動しており，協働の機会を充実させました。異学年で学習を行うことで，上の学年のリーダー性を育成したり，学習を下の学年につないだりすることができます。

学校運営協議会を窓口として地域連携をすすめ，積極的に地域へ出たり体験したりしています。地域の方から学ぶことを通して，多様な視点から課題について考えさせるようにしています。ただ情報を収集するだけではなく，課題をよりよく改善するため，新たな方法を考えたり，地域の方に提案を行ったりしています。

⑧学校運営協議会

学校運営協議会には，地域との連携・橋渡し役をお願いし，学習支援体制を構築していただきました。地域で活動されている様々な専門の方々に声をかけていただき，地域人材バンクに登録していただきました。人材バンクを活用したり，学校運営協議会を窓口にしたりして取材・協力の依頼を行うことで，児童・生徒にとっての豊かな教育環境を作ることができています。また，コミュニティ・スクール推進員や地域学校協働活動推進員が学校と地域との連携の橋渡しになるような活動を行うことで，スムーズに地域と連携をすることができました。

地域の方々も地域に対する強い思いがあり，「こういうことを児童・生徒にさせてみてはどうだろう？」という意見もあります。しかし，本校では「子どものやりたいことを応援する」というスタンスでご協力していただきたいと常にお願いしてきました。他者から課題を与えられるのではなく，自ら課題を見つけ探究を進める，主体性を身に付けるために大切な部分です。

⑨いよいよフィナーレ

単元末では，これまでの探究の成果を保護者やお世話になった地域の方，学校運営協議会の方に発表し，外部に発信します。中学校第３学年は，地域の特産野菜を使用した弁当の副菜の開発に関わり，弁当が実際に販売されたことなどを発表しました。しかし，課題によっては明確な結果が出ないまま単元末を迎えてしまうこともあります。「なぜ結果が出なかったのか？」「次はどうすればいいか？」しっかり考えさせます。探究的な学習の目的は，結果を出すことだけではなく，その過程で資質・能力の育成を図ることです。

福富小・中　探究マップ

福富町には，起業家や移住者が多く，魅力的な場所も数多く存在しています。福富小・中学校職員は「この豊かな地域を活用し，様々な人と出会い，思いや考えを知ることで，主体的に探究的な学習を行うことができるのではないか？協働的な学びを展開することで福富の地域に誇りをもち，自己の生き方について主体的に考えることができるのではないか？」と考え，郷土福富を題材にした探究的な学習を進めました。３年間で関わっていただいた施設，探究の対象となった場所などを紹介します。ここには掲載しませんが，この他にも域外で関わっていただいた施設もあります。

☆ 東広島市役所 福富支所　生涯学習支援センター　社会福祉協議会　久芳地域センター

【小３・４】育てた野菜を使い，協力して地域のイベントを開催しました。

【中１・２】ごみ拾いを行って，出てきた疑問の解説，市の取組事例を紹介していただきました。

【中３】町内における，住民支援活動についてのインタビューや活動を行いました。

● ミコシギク

ミコシギクは「遺存植物」と言われており，広島県内では福富町内にしか自生していないとされている貴重な植物です。

中学生が保全活動を行っていることを知った学校運営協議会が中心となって，専門家や地域の方と「福富のミコシギクを守る会」を設立しました。

★ 道の駅 湖畔の里 福富

【小２】どんなものが売られているか，どんな人が働いているか探検して調べました。

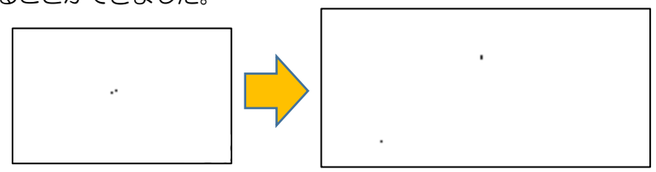
【小５・６】道の駅で開催されたアクアフェスタで，「みんなを笑顔にする」をテーマに，スタンプラリーやワークショップなどを企画し実施しました。

【中１・２】福富町の観光マップを作成し，掲示していただきました。

福富流　地域を題材にした「探究的な学習」の進め方

①まずは実態把握！

小学校第１学年から中学校第３学年まで同じ形のイメージマップを使用し，児童・生徒が地域のことをどのように感じているのかを実態把握しました。個々が地域のよさだと感じていること，地域に対して思っていることを把握することで，異学年集団の実態に合ったテーマを設定することができました。



単元導入時　　単元末時

単元末時に同じイメージマップを書くことで，児童・生徒は，自らの成長を客観的に感じることができます。

②「ワクワク」が大切

テーマを設定した後に，学習活動の流れをまとめたストーリーを可視化した「単元ストーリー」を作成することで，教職員間の連携ができ，同じ視点で児童・生徒の資質・能力の育成にあたることができます。

次に，単元導入時の学習指導案を作成します。ここで大切なのは，児童・生徒が「やってみたい，探究したい！」と思うような単元との出会いです。＜※例えば小学校第３・４学年学級園を見に行く→大豆が食べられている！→足跡がある，動物が犯人だ！→…福富の森は豊かじゃないの？＞

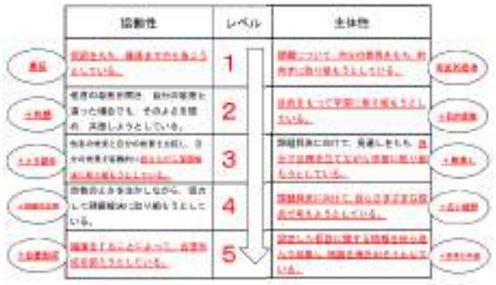
ワクワクするような単元との出会いが，探究を進める原動力になります！

課題設定のポイント
- 発見・疑問を大切に
- 地域へ Let's go!
- 自分は何ができる？

③ルーブリックの開発

目指す資質・能力を明確化するため，９年間を系統的に考えたルーブリックを開発しました。下図は令和４年度に作成したものです。赤字は令和３年度のものを変更したところです。

児童・生徒の実態や単元の特徴などに応じて，定期的に妥当かどうかを検討していく必要があります。



④資質・能力の提示

ルーブリックについてよく言われることは，「子どもたちに具体的なルーブリックを提示すれば，子どもたち自身が資質・能力の育成を意識して活動するのではないか？」ということです。ゴール地点が明確になれば，確かに進みやすいと思います。しかし，ゴールにたどり着いてしまえば，それ以上の成長を目指して活動を進めることが難しくなることも考えられます。進んでいる子どもの成長を止めないためにも，本校では詳細なルーブリックは教師側のみがもち，子どもたちにはこのような項目だけを提示するという形で進めています。

⑤学びの可視化

他のグループの学びの過程が分かるように，「探究ロード」という掲示の場を設置しました。常に同じ展示をするのではなく，学習の進捗状況に合わせて変化していく掲示です。また，掲示するだけでなく，児童・生徒が他者に「見てほしい」と思ったもの等も設置できるようにすることで，主体的に学ぶ意欲の向上につながり，児童・生徒，教員も活用できる場となっています。小学校第３・４学年は，写真や地図で学習の様子を知らせるだけでなく，川グループが川で捕獲した生き物を展示しています。

⑥Project team「FIT」

小・中の教職員が同じベクトルで探究的な学習を進められるよう，FIT（Fukutomi Inquiry learning Team）を組織しました。研究推進リーダーを中心に，管理職，研究主任，生活科担当教員などで構成したチームが主体となり，研究を進めました。ルーブリックの開発や資質・能力の提示の仕方，児童・生徒の主体性・協働性を引き出す効果的なファシリテートの在り方についての研修を計画するなど，学校全体で探究的な学習を推進するために様々な取組を行いました。

研修情報の共有や進捗状況の交流を目的として作成した研究推進通信もその取組のうちの一つです。ぜひ福富小・中学校 HP でご覧ください。

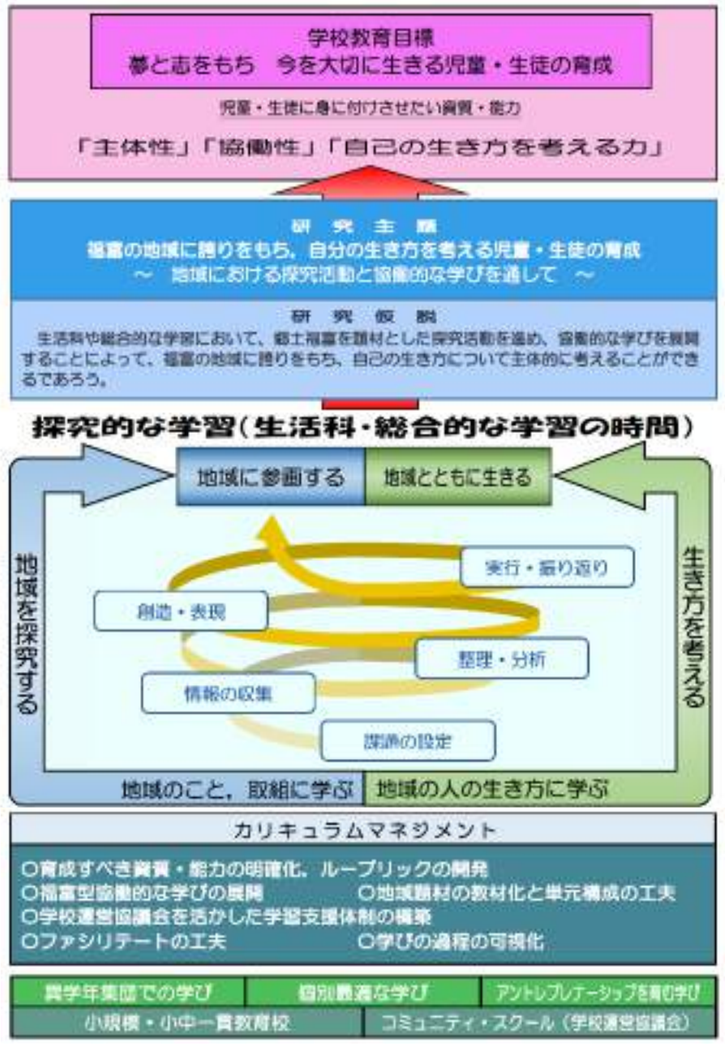
広島県「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」指定校
兼　令和４・令和５年度東広島市教育推進指定校

東広島市立福富小・中学校

探究のあゆみ

本校が研究を推進してきた「探究的な学習」は，地域での様々な人たちとの出会いや体験を大切にして進めてきました。このリーフレットでは，地域とともに歩んだ３年間を紹介します。

研究構想図



廿日市市立宮島小学校・宮島中学校

はじめましょう　探究　　つけましょう　資質・能力

過去と未来をつなぐ

宮島の継承と創造（あるべき姿・ありたい姿）

教職員自ら地域とつながる

学園生の姿を期待する姿へ【資質・能力の系統】

小・中学校9年間の学びをつなぐ

単元の系統性

ポートフォリオの蓄積で自分の成長を自覚

総合的な学習の時間で付いた力

ぼくが総合的な学習の時間で身についたと思うのは，物事を比較する力です。

修学旅行で萩城下町の町家を見学に行ったとき，友だちと「宮島の町家と雰囲気は似ているけど，つし（厨子）二階がないなど，家の造りは似ていない。」という話になりました。宮島の町家について知ったことで，その他の地域の町家と比較することができるようになったと実感しました。

中学生になったら別の地域の町家と宮島の町家がどのように違うのか調べていきたいと思っています。町家はなぜ地域ごとに違う特徴があるのか，文化や気候の違いで造りにどのような影響が出るのかを調べることで，宮島の文化をより深く学び，たくさんの人たちに伝えていきたいと思っています。　（小学校6年生児童）

総合的な学習の時間の中で，自分で立てた問いに対する仮説を立てて探究してきました。この探究を通して付いた力は考える力と聞く力です。自分の考えたことは，他の人の意見や見方・考え方を聞くことによって，いろいろと変化していきました。問いに対する答えは一つではないけれど，自分にとって最もよい答えは何だろうかと考えながら活動しました。

９年間，宮島学園の仲間と共に学んだからこそ，充実した楽しい時間になりました。卒業後は，「何のために生きるのか」という問いに対して，自分なりの答えを見つけていきます。　（中学校3年生生徒）

こんな姿が見られるようになりました！

【児童生徒】

- ○　本物にふれたときの感動・尊敬から地域にかかわろうとする。
- ○　「こうしたらどうかな。」と提案するなど主体的に活動する。
- ○　質問や意見に応答し，自分の考えをしっかり伝える。
- ○　地域とのかかわりから自分自身の生き方を考える。

【教職員】

- ○　教科でも児童生徒の「～したい」を大事にした単元づくりを行う。
- ○　児童生徒を育てるため，他の場面でも積極的に地域に働きかけ，連携する。
- ○　児童生徒と共に探究を楽しむ。
- ○　教えるだけでなく，児童生徒を支えるという授業観をもつ。

学校教育目標

自己の未来を切り拓いていく児童生徒の育成

【目指す資質・能力の系統表】

【単元の系統表】

実施した単元については，単元シートに記録しています。それを参考にして，指導者がウェビングマップを用いた教材研究を行い，児童生徒の関心とともに単元を構想していきます。

Q：毎年同じ学年で同じ単元を実施しているの？

A：扱う題材は同じですが，単元のゴールや活動は異なります。毎年，指導者と児童生徒で決めています。

【単元構成の工夫】

- ○　地域に出かけ見る，聞く，体験する活動の充実
- ○　ずれや隔たりのある事実の提示
- ○　多様な見方に触れる専門家・地域の人との連携
- ○　双方向の発信の場を設定

８・９年「宮島☆未来プロジェクト　」
島内ガイドをしながら，個人探究の経過を報告

４年「宮島杓子のすばらしさを伝え隊」
作成した新聞を地域の方が監修

【振り返り活動の工夫】

○　宮島ファイル

単元後，振り返りや成果物・資料など，自分が必要と思うものをファイルに綴じ，蓄積する。

学年を越え，単元を振り返る。

○　環境設定

教室内には，児童生徒が記したワークシートや振り返りカードを用いて単元の流れがわかるように掲示している。また，廊下には「宮島マナビの地図」を掲示し，各学年の地域での学びの様子を掲示している。このようにして，単元の学びを日常につなげている。

「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」指定校
江田島市立能美中学校区の授業づくりと実践

児童生徒の探究的な学びが生まれる授業の創造

～小中９年間を見通した生活科・総合的な学習の時間の在り方～

ＰＢＬって難しいんでしょ？

はい。難しいですが、子供は変わりますよ。あ、教師も地域もね。

ステップ１

とりあえず まずは、何から始めたらいい？

【子供にどのような力をつけたいか明確に】

教師のベクトルが一致！

まずは一同に会して
育てたい資質・能力の設定や
単元の目標を設定して
子供の学びの姿を思い描こう！

ステップ２

ＰＢＬの児童生徒主体で課題発見なんて難しいでしょ？

【体験から学ぶ仕掛けづくり】

教師のゴールイメージは単元づくりでしておこう！

「夢実現型」「提言型」「貢献型」
どんな視点のテーマで単元づくりをしたいかを明確にして、
仕掛け（体験活動）を吟味しよう！

ステップ３

ファシリテーターっていったいなに？！

【教師の役割はファシリテーター】

ストーリーづくりは論理的な思考の訓練です！

答えを用意したり誘導したりしてはいけません。子供の思いを言語化させてストーリーづくりで自分なりのゴールイメージをもたせる！
例：なぜそう思うの？　ほんと？
　　どうしたらできそう？　どうしたい？
　　それしたらどうなるの？

ステップ４

ＰＢＬは「発信」が重要なの？

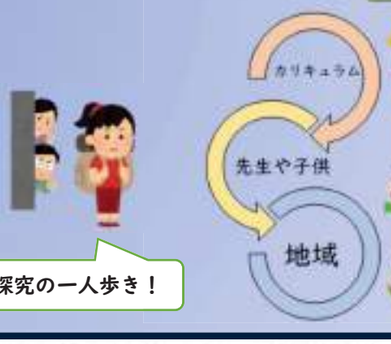
【リアルな発信や実行の場を設定】

「真剣勝負」で未来を切り拓く力となる！

単なる学習発表ではありません。
実際の社会の場で真剣勝負の
発信の場を与えることで、子供たちは
実社会とつながることができる！

研究主題を実践するための３つの「つなぐ」で探究の旅が始まる！

〔小中連携教育の目標〕
ふるさとを愛し、ふるさとに学び、ふるさとに貢献する児童生徒の育成



探究の一人歩き！

☆育てたい資質・能力と評価の共有
児童生徒の自分の学びを見える化！
☆単元構想シートの活用
教師がチームでゴールイメージをもつ！

☆校区の小・小・中の連携
校区全体会　校区クラスルーム
児童生徒の学びをつなぐ！

☆地域と協働の促進
ゲストティーチャー　地域ボランティア
外部発信、外部評価でやる気スイッチON！

PBL（プロジェクト型学習）で児童生徒は変わる！
そして、教師も地域も変わる！

江田島市立中町小学校　３学年　単元構想図

「えたじまん　さぐり隊」
～えたじまん発見！☆江田島大好きプロジェクト～

２年生
ぼくたち　わたしたち
わくわくたんけんたい

○江田島のこと、くわしく知っている人はだれかな？家の人や周りの人に聞いてみよう！

江田島市　産業部　交流観光課
観光係の方からお話を聞きました！

Ｎｓハッピートラベルのキャラクター
「うみちゃん」　ほうしの上に　えたじまん

【評価】
知識・技能　①②
思考・判断・表現　①②
主体性　①

課題設定①

第一次　☆えたじまんのひみつをさぐろう（見て！聞いて！体験しよう）（22）

情報の収集

整理・分析

学校行事「遠足」
中町小わくわくオリエンテーリング

ICT の効果的な活用
カメラ・クラスルーム・ジャムボード

くらべる・分ける・つなげる
社会「まちのようす」「市のようす」

つなげる
理科「動植物のせいちょう」

分ける・くらべる
国語「情報　引用するとき」「お礼の手紙」

まとめ・表現

○えたじまん新聞を作ろう（作品応募）

名人発見！

くらべる・つなげる
道徳「花の気持ちになって」

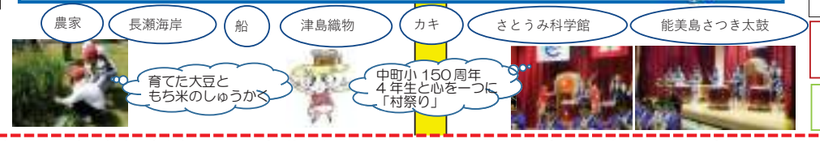
振り返り

中国新聞　出前授業「新聞の書き方」講座

【評価】
知識・技能　②
思考・判断・表現　②③
主体性　②

課題設定②

第二次　☆えたじまんのひみつをもっとさぐろう！（25）



くらべる・つなげる
国語「はじめて知ったことを知らせよう」「対話」

くらべる・つなげる
道徳「わたしのいいいところ」

単元構想図を児童と教師で共有することで、単元を貫く問いがぶれることなく、ゴールに向かうことができる。
児童の思いなど、加筆修正しながら、単元構想図を活用することで、教師も児童も見通しをもって進めることができる。目的意識や相手意識をはっきりさせながら、単元構想図にカリ・マネの視点を取り入れることで、効果的な学びが生まれ、時間を有効に使うことができる。
これより下の単元構想図は、１１月以降、新たに加筆・修正したもの（朱書き）　吹き出し（　　）は児童の発言

○Ｎｓ３ハッピートラベル～ガイドになろう！～

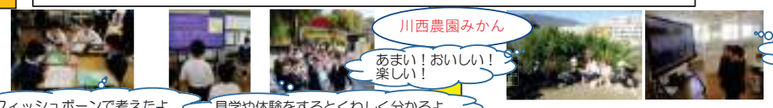
全校　宮島ツアー　プレゼン（朝会）
せとブルーに乗って宮島に行こう！
せとブルーは人にやさしい船
せとブルーは江田島カラー（青と白）
せとブルー　えたじまんにんてい★★★

くらべる・つなげる
国語「すがたをかえる大豆」

学級活動
「楽しい社会見学」

整理・分析

○えたじまん にん定会議をしよう　【本時　46/60】

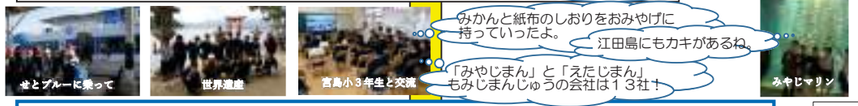


くらべる・分ける・つなげる
国語「はんで意見をまとめよう」

学校行事「社会見学」
瀬戸ブルーに乗って、宮島に行こう

○えたじまんをする方法や内容を考えよう

全校児童　みやじまツアー



みかんと紙布のしおりをおみやげに持っていったよ。
江田島にもカキがあるね。
「みやじまん」と「えたじまん」もみじまんじゅうの会社は１３社！

まとめ・表現

課題設定③

第三次　☆Ｎｓ３ハッピートラベルツアーに出かけよう！（10）

【評価】
知識・技能　③
思考・判断・表現　④
主体性　③

情報の収集

わくわく　えたじまんツアー
２月２１日（水）予定
時間は？
ツアーのしおりを作るよ
行くじゅんばんは？
持って行く物は？

整理・分析

①オリーブファクトリー → ②さとうみ科学館 → ③江田島荘ランチ → ④やながわ水産（カキ）

まとめ・表現

○えたじまんマップ（リーフレット）を作って、えたじまんを広げよう

江田島市　産業部　交流観光課
観光係の方に　自分たちの「えたじまん」を伝えたい！

家族に伝えたい！
地域の人に伝えたい！

３年生最後の参観日
伝えようよ！！

家族
地域の人
中町小学校の先生や友達
江田島に来る人

くらべる・つなげる
国語「つたわる言葉で表そう」

くらべる・分ける・つなげる
国語「コンピュータのローマ字入力」

くらべる・分ける・つなげる
国語「わたしたちの学校じまん」

振り返り・

考えたことを他の学年に伝えたいな。
お世話になった人に伝えたいな。

えたじま大好き☆こんなにすてきなところ　みんなおいでよ

江田島市立鹿川小学校　６学年　単元構想図

単元名　Catch Your Dream!

江田島市の将来のために、今の自分（たち）にできることとは。

国語「話し言葉と書き言葉」
社会「わたしたちの生活と政治」
行事「市議会アドベンチャー①」
社会「願いを実現する政治」
国語「私たちにできること」
国語「みんなで楽しく過ごすために」
国語「日本の文化を発信しよう」
国語「人をひきつける表現」
算数「資料の整理」
算数「データの活用」
国語「今、私は、ぼくは」
社会「日本とつながりが深い国々」
外国語「What do you want to be?」

Part1「知る・分かる」　PROJECT①　『江田島の魅力再発見プロジェクト』

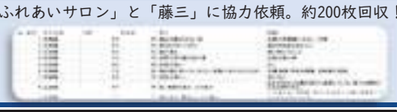
「江田島人物図鑑」から、児童が魅力的だと思う人を探し、担任からアポ取り。
全部で４名の方と、直接やり取りできました。

課題設定
○『江田島市統計資料』から、江田島市の現状と、地域が抱える課題を見つける。
○江田島市の将来のために、「江田島市の魅力」を効果的に発信するための計画を立てる。

「このままでは故郷がなくなる!?」という切迫感に焦点化。今の自分にできる『移住者促進』とは？

情報の収集
○「地域の人」と「移住者」にインタビューとアンケートを実施し、「江田島の魅力」を調べる。

「ふれあいサロン」と「藤三」に協力依頼。約200枚回収！



整理・分析
○「地域の人」と「移住者」とで、感じている「江田島の魅力」の共通点や相違点を見つける。
○江田島市の将来の発展につながる「江田島の魅力」があるかどうか分析する。

アンケート回答をエクセルにまとめ、「テキストマイニング」を使用して分析。（結果は右図）地域の方々は、「豊かな自然」と「人情味あふれる人」を『江田島の魅力』として捉えているようでした。

まとめ・表現
○インタビューやアンケートの結果を「魅力発見ポスター」にまとめ、協力していただいた方々に周知する。

Part2「つなげる・深める」　PROJECT②『江田島の魅力深掘りプロジェクト』

課題設定
○「江田島の魅力」の中で、江田島の将来の発展に向けて、『深掘り』した方がよい魅力を整理し、『**深掘り**プロジェクト』の計画を立てる。

地域の人が『江田島の魅力』だと思っている「自然」と「人」は、自分達が『移住者促進』のために伝えられる魅力になるのかな？　⇒　自分事にするために体験活動を！

情報の収集
○『深掘り』する魅力の事前知識を出し合い、調べるべきことを考える。
○**実際に体験したり、話を聞いたりする**ことで、「江田島の魅力」を自分事として捉える。

マリンスポーツ体験・陶芸体験（「10サンジ」のご協力）・自給自足生活体験（「おきらくや」のご協力）を実施。

整理・分析
○「江田島の魅力」について、『新たに気付いたこと』や『改めて魅力に感じたこと』を、『江田島に移住する（したい）人』に伝えるという視点で**整理**する。

KJ法やフィッシュボーン図を使用。話し合う中で、体験活動そのものの魅力以外に、**『体験活動を経て気付く江田島の魅力』がある**ことを知る子どもたち。

まとめ・表現
○『江田島に移住する（したい）人』に向けて、「江田島の魅力」を**広報する資料**にまとめる。

伝える相手や目的を明確に。作りっぱなしにならないように、市役所の観光課や、「フウド（移住に関わる一般社団法人）」と連携しながら、発信に向けて準備を進める。

Part3「広げる・生かす」　PROJECT③『江田島の魅力発信プロジェクト』

課題設定
○「江田島の魅力」を効果的に発信するための計画を立てる。

年度当初に、教師が計画した流れではこの内容になるが、実際は少しずつ軌道修正しながらゴールに向けて動いている。ただ、**「江田島の将来的な人口増加につなげる活動をする」という目的**と、**「島内外に関わらず、出来るだけ多くの人に」という相手意識は変わることが無い**ように、事前に明確に示しておくことが大切。（教師側の教材研究は大いに重要になってくる。あとは、児童の興味関心に応じて臨機応変に…。）

情報の収集
○江田島市役所や、地域おこし協力隊の方々から、情報発信で必要になる事項をインタビューする。

整理・分析
○江田島の将来の発展のために、どのような方法で、どのような相手に「江田島の魅力」を発信するか、インタビューで集めた情報を整理する。

マリンスポーツ体験

まとめ・表現
○１年間の学習の成果を、より多くの人に発信する。
○１年間の学習の成果を元に、自分と江田島との関わりについての変化や、自分自身の成長について振り返る。

陶芸体験

単元のゴール　**江田島市の人口減少に歯止めをかけるために、江田島市の魅力を発信し、移住者を増やす取組をする。**

江田島市立能美中学校　３学年　単元構想図

単元名　江田島の発展を目指して～自分たちにできる地域貢献とは？～

江田島市の将来のために、今の自分（たち）にできることとは。

国語「情報整理のレッスン」
国語「思考のレッスン」
社会「わたしたちの生活と現代社会（公民）」
英語「ディスカッション」
国語「説得力のある構成を考えよう（スピーチ）」
道：C-(16)郷土の伝統と文化の尊重
国語「多角的に分析して書こう」
国：三年間の歩みを振り返ろう
道：A-(5)真理の探究、創造

Part1「知る・分かる」　PROJECT①　『地域に貢献～やってみようプロジェクト！』

課題設定
自己解決ではなく客観的で必然性のある課題発見！

○昨年度の「江田島の魅力を残したい企画」を振り返り、また『江田島市統計資料』やアンケート調査等から、江田島市の現状と、地域が抱える課題を見つける。
○江田島市の発展のために、自分たちにできる地域貢献をするための計画を立てる。

情報の収集
江田島市のFacebook等これまでの人脈と発信方法を活用して、より多くの人の声を聞こうと奮闘！

○地域の現状と課題を捉えるために、住民、移住者、事業所、他地域の人々に幅広くインタビュー等を実施し、地域貢献の手がかりを調べる。

整理・分析
○様々な人の思いの共通点や相違点を整理し、江田島市の発展に繋がる地域貢献について、具体策を見つける。
○江田島市の将来の発展につながる地域貢献として、自分たちに実行できるかどうか分析する。

多くの人の思いを聞くことはできても、それは自分たちの力でできることなのか？と、悩み迷走する姿もみられました。

まとめ・表現
○自分たちにできると判断した地域貢献を計画し実行する。

まずは自分たちの思いを大事にし、２年間の学びを活かし、自分たちで計画し、外部とやり取りし、とにかく実行してみました！

江田島荘のお客様に島の魅力発信！

Part2「つなげる・深める」　PROJECT②『地域に貢献～リベンジプロジェクト!』

課題設定
○実行してみた地域貢献について、実際の貢献度を振り返り、良かった点や改善点を整理し、地域の方や団体等と協働した実現可能性のある地域貢献リベンジプロジェクトの計画を立てる。

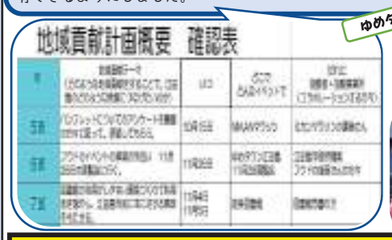
PROJECT①の振り返りでは貢献度が低かったので、江田島市の発展をめざすための知見を深めるために、教師から「協働」のミッションを与えました。

情報の収集
自分たちで考えた貢献が、江田島市のどんな発展につながっていくのか、認識することができました。

○各グループで「環境・自然」「生き方・キャリア」「伝統・文化」「町づくり・福祉」の地域貢献のテーマを確認し、事前に準備するべきことを考える。
○協働したい地域の方や団体等の情報を収集し、コンタクトを取り貢献内容について協議、連携する。

整理・分析
○協働したい地域の方や団体等と協議した内容を、実現可能性という視点で整理する。

協働したい団体等とのやり取りと並行し、整理・分析して計画立案に繋げていきました。計画立案は、「地域貢献計画概要確認表（スプレッドシート）」に随時入力させて、教師４人と10班の生徒が常に共有できるようにしました。


地域貢献計画概要　確認表

まとめ・表現
３年間の集大成といえるくらいの活動の場の広がりや、たくさんの人との出会いがありました。

○自分たちのアイデアをまとめ、町づくり・行政関係者・市民にイベント開催の意図を伝え、自分たちでできる地域貢献を実行する。

Part3「広げる・生かす」　PROJECT③『これが自分たちにできる貢献だ！発信プロジェクト』

課題設定
○江田島市の発展のために、協働した方達の評価等を踏まえ、自分たちの地域貢献について、これまで関わった方々に効果的に発信するための計画を立てる。

公開研究会では、参観者にも評価をいただきながら、よりよい発信のための分析をすることができました。

情報の収集
○江田島市の発展のために、各グループ同士で地域貢献内容や自己評価貢献度をプレゼンテーションし、相互評価したり協議したりして、発信に必要になる事項を収集する。

整理・分析
○江田島市の発展のために、実行した地域貢献について、どのような方法で、どのような相手に発信するか「持続可能性」と「協働性」の観点で整理し、相互評価等で集めた情報を比較・分析する。

まとめ・表現
３年間で関わった方々に生徒自らアポイントを取り、活動報告や自分たちの思いを語り合う会を開きました。

○１年間の学習の成果を、関わってきた方達に発信する。
○１年間の学習の成果をもとに、自分と江田島市との関わりについての変化や、自分自身の成長について振り返る。

単元のゴール　**江田島の発展を目指して、自分たちにできる地域貢献を実行する。**

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業
（令和３年度～令和５年度）

府中中学校区９年間の学び

府中中学校　府中小学校　府中東小学校　府中北小学校

主体的・対話的で深い学びの創造
～探究的な学習のカリキュラム開発・実践・連携～

学びの視覚化

～～単元構想図の共通化～～
中学校区で、共通の単元構想図を使用

〈中学校〉

〈小学校:総合的な学習の時間〉

〈小学校：生活科〉

９年間の体系化

～～９年間の学びマップ～～
９年間の学びのつながりを図式化

単元のつながりを生かした中学校区での学び

同じテーマで中学生が学んでいると知った小学生が，オンラインで自分たちの企画についてプレゼン。小学生のプレゼンを聞いた中学生が内容やプレゼンのコツについてアドバイス。

防災について学んでいる小学生が，中学生が企画した避難所に避難者として参加。お互い気付きを次の学びに生かす。

４校合同研修会

マップをもとに４つのテーマに４校の先生が分かれ，各校の取り組み内容や課題，単元の構成についてアイディア交換。また，お互いの校内研に参加し，意見交換。

資質･能力の共有化

～～中学校区の資質・能力関連図～～

～～中学校卒業時に目指す姿～～
この姿をもとに各単元でルーブリックを作成

Get：課題発見力	問いを持つ/知識・技能を身につける（知識・技能）	学習したことと地域社会の状況を自分事として関連させ、課題を見つけることができる。
Think：他と関わる力	自己表現する/考えを深める（思考力・判断力・表現力）	仲間と協働して思考を深め、考えたことを論理的に表現することができる。
Act：自ら行動する力	自己決定する/より良い策を見つける（主体的に学習に取り組む態度）	目標達成に向け、粘り強く挑むことができる。

各校の取り組み

府中小学校　府中東小学校
府中北小学校　府中中学校

「ぐんぐんデー」による学びのアウトプット

目標に向かう力　他者と協働する力　情動を制御する力

子どもと共有するルーブリック

仲間と学びを深める

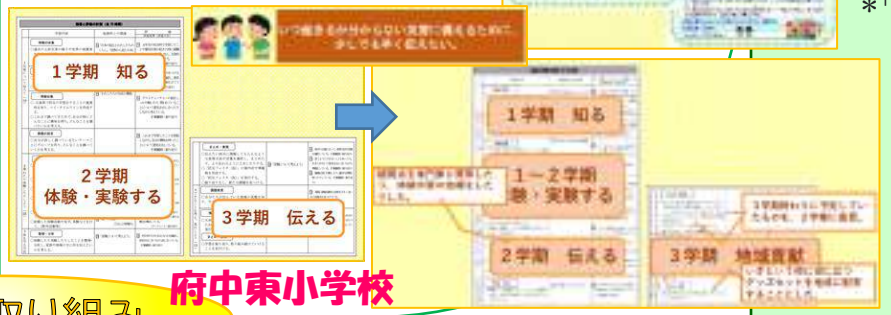
自分で学びを選択しやり抜く

主体的な学習につながるルーブリック
（めあてと関連付けて）

つける力と学習計画

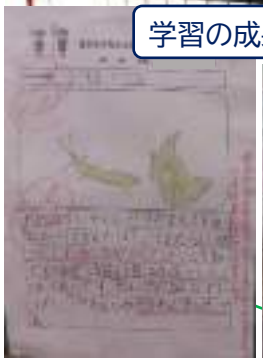
建設的な話合いのための手立て

柔軟に運用する単元計画

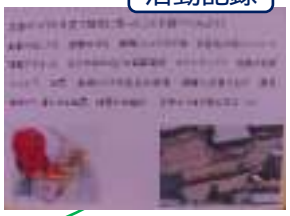


学びのあしあと（生活・総合）
学習のゴールや方向性の視覚化

学習の成果物



活動記録



３年間の学びのつながり

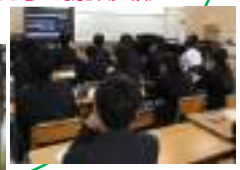
〈課題解決のための企画・実施・地域へ提案〉

〈修学旅行先の市役所で調査〉

〈職場体験から生き方を模索〉

〈平和公園で平和を伝承・発信〉

〈自分たちで講師依頼〉



〈1 日限定避難所運営〉

参加者の声

＊小学校3校の学びが，中学校での学びの多様性につながっているのが嬉しくなった。子供たちの経験や思いから，学び方を柔軟に変更できるようにしていきたい。
＊児童生徒自身に9年間の学びのつながりを意識させることも大切だと感じた。自校のみでなく外部と連携して生徒の学びにつなげたい。
＊小中の学びを児童生徒の交流により繋いでいくことができれば，より主体的に自分事へとつながっていくものになっていくかと思った。
＊目的や目標が明確になっていれば，クラスによって多少の活動の変更があってもいいことを知ったので，しっかり子供たちと話し合いながら活動を進めていきたい。
＊「子供たちだからできること」という視点を教えていただいた。総合的な学習の時間以外でも活用したい。
＊達成感だけでなく新たな課題を見つけさせることが，次の学びにつながる大切なことなのだと学んだ。
＊今後の実践予定も交流出来たら，今後の授業に活かせて，児童に還元されるのではないか。また，中学校との連携の話があり，中学生に発表を聞いてもらうなど，取り入れたい。
＊児童の思考に沿って，単元計画を柔軟にとらえるということが学びになった。児童の思考の丁寧な見取りと，学年でのこまめな情報交換が必要だと感じた。

成果

＊ルーブリックの活用などについて，総合的な学習の時間から他教科などに広がりつつある。
＊めあてとルーブリックを関連付けたことで，自分たちで考えためあてで学習を進めることができ，授業終了時にめざす自分が焦点化された。次にめざす自分の姿をイメージする児童が増えてきている。
＊児童と共有したルーブリックなどを視覚化することで，教職員も児童もいつでも見直すことができ，めざすゴール像からぶれないで学びを深めることができた。
＊指示待ちの姿勢が目立つ児童が多いクラスだったが，自分たちで話合い，企画し，実行しようとするようになった。総合的な学習の時間だけでなく，学校生活全般に効果が波及している。

課題

＊教職員で児童に身に付けさせたい資質･能力について考え，共有することで同じベクトルで指導できるように意識統一は行ったが，活用という点においてはまだ不十分なところがある。
＊新たな課題を見つけるのに時間がかかった。解が１つではない「本質的な問い」について，児童と一緒に考えたり，教師の考えを示したりしていなかったことが原因ではないか。「本質的な問い」ついて，児童と一緒に考える計画を立てている。
＊「NIE」を取り入れた授業実践を検討中。「探究的な学習」や「深い学び」と結び付け，授業への取り入れ方など今後学んでいく必要がある。

〈小中共通人材バンク〉の作成
学びの中で関わりのあった地域の方々を小中で共有。

探究の深化を支える

府中町立府中中学校
安芸郡府中町宮の町５丁目4-28
TEL:082-282-3181

府中町立府中小学校
安芸郡府中町本町２丁目15-2
TEL:082-281-9411

府中町立府中東小学校
安芸郡府中町山田４丁目4-1
TEL:082-286-1835

府中町立府中北小学校
安芸郡府中町清水が丘23-1
TEL:082-285-1001

単元構想図 第４学年 単元名「西のチカラプロジェクト～みんないきいき！住みよい町づくりを目指して①～」（全４１時間）

《本質的な問い》

海田町に暮らすすべての人々が笑顔でいられる町であるために，わたしたちには何ができるだろうか。

問題

地域の人とのかかわりが薄い。

①高齢者はどのような思いや願いをもっているだろう。

②高齢者が笑顔でいられるために，わたしたちにできることは何だろう。

③高齢者が笑顔でいられる町って，どんな町だろう。

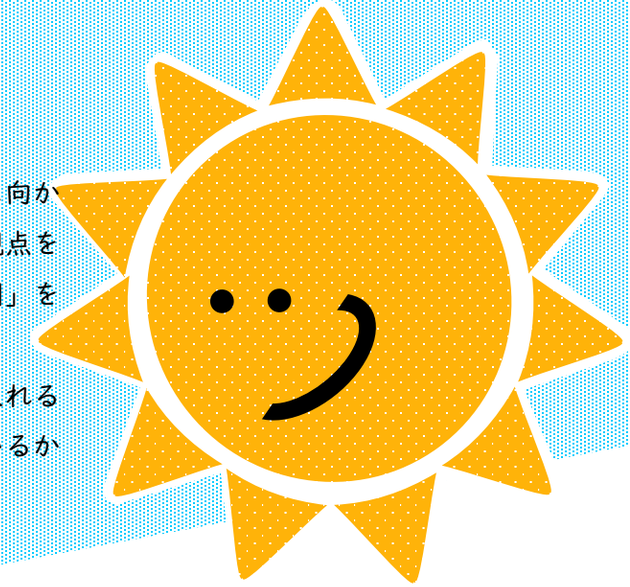
新たな問いへ

	探究のサイクル１（１２時間）	探究のサイクル２（１４時間）	探究のサイクル３（１５時間）
知る	・３年間の学習から，海田町には，いろいろな思いの人が住んでいることを知る。 ・すべての人が幸せにくらすために「福祉」という考えがあることを知る。	・前単元から，わたしたちが高齢者に関わることで，元気が笑顔を届けることができることを知る。	・福祉総合スクエア「ふれ」「青大学」など，町内で高齢者を笑顔にするための活動をしている人がいることを知る。
聞く	・動画教材（NHK for school「ドスルコスル」）から，高齢者が抱える課題として，「孤独」「貧困」があることを知り，「高齢者は幸せにくらせているのだろうか」という課題をもつ。	・プロジェクトを立ち上げ，海田町の高齢者との交流会の計画を立てる。	・「青大学」で活動している人たちは，どのような思いをもって活動しているのかを聞き，２回目の交流会に向けた課題を明らかにする。 ・２回目の交流会に向けた今後の活動を立てる。
探る	・海田町社会福祉協議会や「華椿子とことこクラブ」と連携し，高齢者が幸せを通して，高齢者の身体的不自由さを体験する。 ・インターネットや本から，高齢者の目の見え方や耳の聞こえ方，認知症，社会福祉施設などについて調べ学習をする。 ・「華椿子とことこクラブ」の方々にインタビューを行い，元気の秘訣や日々の暮，悩み，わたしたちへの願いなどを聞く。 ・調査したことをもとに，高齢者が元気に暮らすための秘訣が，「人と関わること」であると判断する。	・「高齢者もわたしたちも楽しめる遊び」について話し合う。 ✓ダイヤモンドランキング，ピラミッドチャート ・「海」に沿っているか「期待感」について，交流会の内容について検討し，交流会の目的を明確にする。	・「青大学」で活動している人たちの思いを整理し，自分たちの活動と関連付ける。 ・１回目の交流会の課題をもとに，交流会の内容を分析し，改善する。 ・「海」に沿っているか「期待感」について，交流会の内容について検証する。
創る		・海田町社会福祉協議会や海田町の高齢者（「華椿子とことこクラブ」「あじさいの会」「六つ星」）と１回目の交流会の準備をする。 ・交流会を実施する。	・海田町社会福祉協議会や海田町の高齢者（「華椿子とことこクラブ」「あじさいの会」「六つ星」）と２回目の交流会の準備をする。 ・交流会を実施する。
省みる	・学び始めの振り返り，海田町に住む高齢者が笑顔で暮らせるために，私たちにできることは何かという視点で学習を振り返り，新たな課題に向かう。	・１回目の交流会について，交流会の時間や内容から，自己の生き方の変容について振り返り，２回目の交流会に向けた新たな課題を設定する。	・自己の生き方とつなげながら，単元を通した学び始め振り返る。

単元構想図

児童生徒が真剣に，本気になって学びに向かう学習活動を構想するうえで，ＰＢＬの視点をもとに，海田西中校区独自の「単元構想図」を活用しています。

また，期待される児童生徒の姿を書き入れることで，資質・能力が確実に育成されているかどうかを把握することができます。



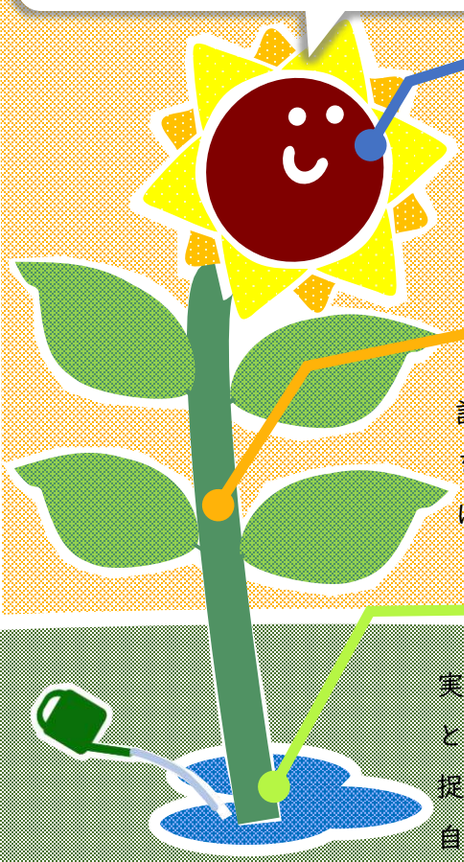
海田西中学校区　探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業

主体的に学びを深める児童生徒の育成

～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

「児童生徒の資質・能力をひまわりのようにのびのびと育んでいきたい」。そのような願いのもと，「単元構想図」を温かく照らし成長を促す「太陽」に，「振り返りの視点」を生命の源である「水」に例え，取組を進めてきました。

資質・能力の育成をより確かなものにするため，中学校区で育成する資質・能力を設定しました。「学びを言語化し，主体的に自己の生き方について考える児童生徒」を育てていきたいと考えています。



コミュニケーション力

探究の過程において，自分の考えをもち他者に伝えるとともに，異なる意見や考えを生かしながら合意形成を図り，他者と協力して問題の解決に向けた探究に取り組むことができる。

主体性

課題の解決に向け，自分の意思で目標をもち，周囲と協働しながら探究活動に粘り強く取り組むことができる。

メタ認知

実社会や実生活における「ひと・もの・こと」との関わりを通して，自分を俯瞰して捉え，考えを広げたり，深めたりしながら自己の生き方を考えることができる。

【海田西小学校の振り返りの視点】

振り返りの視点

振り返りは，自己と対話することで，学習内容とつながり，学びの広がりや深まりを自覚することができます。また，自己を見つめることは，「メタ認知」を育成することにつながります。

海田西中学校区では，各校の実態に応じて振り返りの視点を設定し，児童生徒の実態，学習内容や活動によって，柔軟に視点を与えています。

海田町の「人・もの・こと」

古くは山陽道の宿場町として栄え，今でも交通の要衝となる利便性・快適性が高い町です。また，町外からの人口流入も多く，暮らしやすさが実感できる町です。町の中心部では都市化が進む一方，豊かな自然や歴史ある町並みも現存しています。日本人初の金メダルを獲得した織田幹雄，江戸時代より伝わる郷土料理「海田さつま」などが自慢です。海田西中学校区では，地域の「材」を生かし「本物」の探究を進めています。

令和5年度
熊野町立熊野中学校区研究紀要

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業指定校

熊野中学校・熊野第一小学校・熊野第三小学校

1 研究の進め方

1年目
育成する資質・能力の系統性を図る
「地域」を題材とする単元開発
ルーブリックの作成

2年目
防災・減災学習を含めた「地域」を題材とする単元改善
ルーブリックの活用

3年目
「表現力」のルーブリックの見つめ直し
開発した単元の見つめ直し

小中学校のつながりをもたせた単元開発をしていったら
「探究」が深まっていくよね!

2 育成する資質・能力の系統性

メタ認知		協働		表現力	
第一小	第二小	第一小	第二小	第一小	第二小
わかる・できる力 振り返る力	分かる・できる力 向上心	協働する力	思いやり	自分の考えを表現する力	表現力
熊野中 自己分析 スキルアップ		熊野中 協働		熊野中 表現力	

「メタ認知」「協働」「表現力」の3つの領域を設定

→各校の資質・能力を育成

→9年間で育成する資質・能力が明確になって,
目指す児童生徒像もイメージしやすくなったね!

熊野中学校区の課題は…

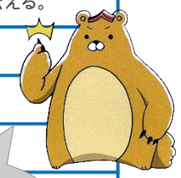
「表現力」

3 「表現力」のルーブリック作成

目安	【表現力】 自分の考えをまとめ, 言語表現し, 他者に伝える力
中3	多様な考えを想定しながら, 相手を説得できるように, 表現を工夫して分かりやすく伝える。
中2	異なる立場や考えを想定しながら, 根拠を吟味し, 自分の考えを分かりやすく伝える。
中1	目的に応じて筋道立てて考え, 根拠を明確にし, 自分の考えを分かりやすく伝える。
高学年	相手や目的, 意図に応じて, 資料を活用するなど効果的な表現方法を選んで書き表したり, 伝えたりしている。
中学年	自分の考えや調べたことを, 相手や目的を意識して書き表したり, 伝えたりしている。
低学年	気付いたことや考えたこと, 楽しかったことなどを, 多様な方法(言葉, 絵, 動作, 劇化など)で表現し, 伝えている。

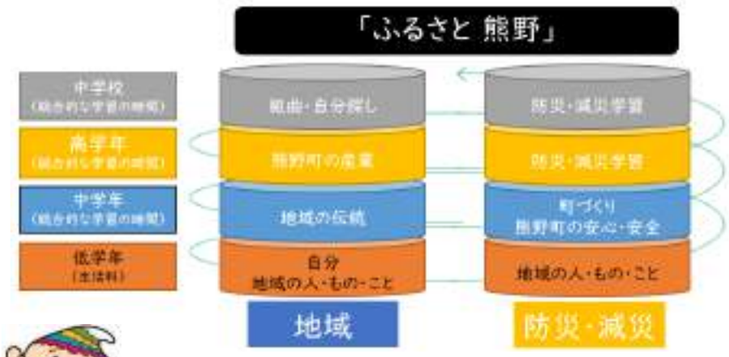
どんな力を付けたいのか
分かりにくいなあ。

目安	【表現力】 自分の考えをまとめ, 言語表現し, 他者に伝える力
中3	相手を説得できるように, 表現を工夫して分かりやすく伝える。
中2	根拠を吟味し, 自分の考えを分かりやすく伝える。
中1	根拠を明確にし, 自分の考えを分かりやすく伝える。
高学年	相手・目的を意識して工夫して伝える。
中学年	相手・目的を意識して伝える。
低学年	自分の言葉で自分の考えを伝える。



分かりやすく
してみよう!

4 発達段階に応じた単元開発



○「地域」「防災・減災学習」を単元開発の柱に
○小中つながりのある「防災・減災学習」の単元開発

5 各校の取組

小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2 中3

熊野第三小学校

1学期　単元名　安心安全な町　熊野町　～校区を探検　安心して暮らせる工夫をさがそう～

2学期　単元名　みんなで守ろう　大切な命
～土砂災害から命と暮らしを守ることについて調べよう～

災害から命を守るには・・・

課題の設定

ひろしま防災出前講座

広島県は日本一危険個所が多いことを知り，自分たちが生活している熊野町について調べてみたい。

災害から生活や命を守るためにどんな工夫があるのか，自分たちは何ができるのか調べたい。

情報の収集

熊野西防災交流センター

避難所で安心して過ごすためのエ夫がたくさんある事が分かった。

砂防ダム見学

砂防ダムを造ることで，災害からみんなの生活を守ることができることが分かった。

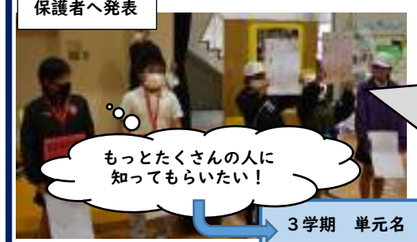
整理・分析

調べて分かった防災の工夫や，自分たちにできることの中から，一番伝えたいことをピラミッドチャートを使って決めていった。

地図にまとめると熊野町全体の危険な場所や防災の取組が分かりやすい。

まとめ・表現

保護者へ発表



もっとたくさんの人に知ってもらいたい！

グループで決めた伝えたいことが一番伝わる発表の仕方を，グループで話し合って決めた。

聞いている人が，「避難所に行ってみよう。」「持ち出し袋を用意してみよう。」と思ってもらえるように，発表を工夫した。

3学期　単元名　安心安全な町　熊野町　～防災の大切さを広めよう～

熊野第一小学校

課題の設定

単元名　伝えよう！命の守り方

防災備蓄倉庫見学

全町民の３日分の食料しかないの！！

これだけで本当に命が守れるの？

今の自分たちにできることは何？

防災安全課の方のお話

町内全家庭に防災ハザードマップが配られているのに，ちゃんと活用されている？

情報の収集

被災された町民の方からのお話

「避難は空振りに終わってもいい。命があれば。」

通学路や家の周り，避難所までの経路の調査

整理・分析

Padlet　Map で，「防災ハザードマップ」としてまとめる。

ハザードマップで危険区域になっていなくても，危険な場所がたくさんあるよ。

家族や地域の方に伝えたい内容を考える。

まとめ・表現

学習発表会

命を守るために　今の自分にできること！！

熊野中学校

単元名　避難したくなる避難所を自分たちでつくろう！

課題の設定

避難所のイメージは？

★避難所のイメージをもとに
避難所の課題や改善点を考える

情報の収集

避難所ってどんな場所？

★避難所運営ゲーム
「HUG」

避難所での出来事や
避難者対応を模擬体験

避難所運営ってむずかしい！

★指定避難所：熊野東防災交流センター見学・設営体験
実際の避難所について知る

段ボールベッドってこんなに簡単に組み立てられるんだ！

整理・分析

どんな場所なら避難したくなる？

★すべての人にとって心地よい避難所づくりのアイディアを出し合う

長期避難者にとっても過ごしやすい避難所ってどんな避難所なんだろう…

まとめ・表現

避難したくなる避難所のアイディアを発表しよう

★熊野町の防災安全課の方を招き，アイディアを発表

中学生の自分たちでもできることをやっていきたいな。

令和５年度「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」
坂中学校区（坂中学校、 坂小学校、 横浜小学校、 小屋浦小学校）

坂中学校区　探究的な学習の授業づくりにおける三つの柱

課 1 課題意識をもたせるしかけ

自分が想像していたこととのズレを感じさせたり、憧れをもたせたりするための工夫を行う。

ICT 2 ICT の効果的な活用

ICT の、時間的・空間的制約を超えること・双方向性を有すること・カスタマイズが容易であることなどの特徴を生かし、これまでの教育活動において実施が困難だった活動や、時間がかかっていた活動を単元の中に積極的に取り入れる。

GT 3 ゲストティーチャーの効果的な活用

外部人材（外部機関）を積極的・効果的に活用し、生徒にとって充実した活動となるようにする。

※上記１～３について、単元の学習活動の中で、生徒に資質・能力を身に付けさせるために、効果的に活用された場面をマークで示している。

坂中学校

第３学年 防災学習「お互いの命を守りあおう」

探究課題「ふるさと坂のために、
中学生の私たちができることは何だろう。」

課 ①課題の設定

○KJ法を用いて、 坂町のよいところ、 改善してほしいところを交流する。
○坂町のこれまでの一般会計歳出を比較し、 気付いたことを交流する。

①課題意識をもたせるしかけ

坂町の災害復旧費が
５億５０００万円（令和元年度）⇒３０００万円（令和４年度）
になっていることを坂町の会計歳出から知る。

↓

・こんなに災害復旧費が減っているとは思わなかった。
・予算が少なくなっている中で、どんな防災対策ができるだろうか。
・中学生としてふるさと坂のためにできることはないだろうか。

【経済的な観点】【生徒の認識とのズレから課題意識をもたせる】
【坂町の施策が復旧から復興へ変化していることにも気付かせる】

GT ⑤体験・振り返り

○まとめとして、自衛隊による出前授業を行い、自己の学びを関連付け、 探究活動Ⅰを振り返る。

②情報の収集

○防災学習プリントを使って、 防災に関する基礎的な知識を学ぶ。

課 ICT ①課題の設定

○西日本豪雨の被災者の体験談を聞く。
○坂町HPの「復旧・復興に関する動画」を視聴する。

ICT ③整理・分析

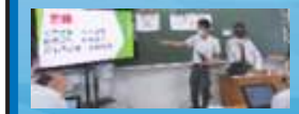
○前時の学習から興味を持ったテーマを決め、テーマに沿って調べたことをPPにまとめる。

④振り返り

○探究活動Ⅰ・Ⅱをもとに、防災学習での学びを外部に発信する方法や手段について考える。

ICT ④創造・表現

○PPを使って調べたことを発表し、 他者に伝える。
○ジャムボードを使って、他者評価を行う。



ICT GT ③創造・表現

○追悼集会を企画・運営する。
○追悼集会で、「防災に向けたメッセージ」を発表する。

課 GT ①課題の設定

○坂町環境防災課の方から坂町の取組、 課題について知り、 中学生の私たちだからできることについて考える。

②ICT の効果的な活用

３年生から１・２年生へ「防災に向けたメッセージ」として、啓発を呼びかける動画や、パワーポイントによる説明を行った。動画の撮影・編集も含めて全てタブレットを使って生徒が作成した。

③ゲストティーチャーの効果的な活用

坂町環境防災課の方を招聘し、坂町の取組や課題について専門家から、直接知ることで、中学生の私たちだからできることを考えさせながら、課題を設定した。

ICT ②情報の収集・整理・分析

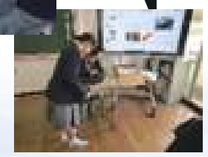
○探究活動Ⅰの学びを振り返り、 坂中生徒へ伝えたい「防災に向けたメッセージ」を作成する。

②ICT の効果的な活用

google のアンケート作成ツール「Forms」を使って、防災意識に関する実態について、小中学生合わせて５７１人に対して調査を実施した。その際、カリキュラム･マネジメントの視点に立ち、技術科と連携し、Forms でのアンケート作成方法を全員で学習した。【データ収集】【生徒の「やりたいこと」を実現】

ICT ②情報の収集

○Formsを使ってアンケートを実施し、 実態を把握する。
○防災、減災に関わる坂町の取組についての理解を深める。



ICT GT ③整理・分析

○情報収集を基に、テーマを決め、これまでの学びを外部に発信する方法を考える。（誰に対して、どこで、どのような方法で　等）
○構想案を有識者に発表、意見交換を行い、 構想案を見直す。

④創造・表現

○見直した構想案を基に、資料や動画を作成し、 外部に発信する。

⑤体験・振り返り

○他の中学校と防災に関わるオンライン交流会を実施する。

③ゲストティーチャー（GT）の効果的な活用

事前に教員が GT と密に連携を行い、アドバイスの方向性を確認する。生徒は、自分たちで考えた構想案を GT に見てもらい、アドバイスを受ける。

【アドバイスの例】

・（ポスターを制作する班に対して）「防災のポスターは行政でも作っていると思うよ。みんなが作るポスターはそれと何が違うの？」「地域の高齢者はポスターを見るかな。あの子が言うなら避難しようかと思える関係を作っていくことの方が大事かもしれないね。」

↓

生徒はこのアドバイスを受けて、ポスターに自分たちの顔写真と吹き出しを付けて、地域の高齢者の方にも見てもらえる工夫を行った。

【事前の連携】【教員からでなく、専門家からのアドバイス】

坂小学校　第4学年「きれいで自まんできる町 坂町～わたしたちにできること～」

Ⅰこれまでの学習を基に、 新たな課題発見・課題設定 ～課題意識を持たせるしかけ～「坂町はきれいで住みやすい町だと思っていたけど、 実際は？」

「坂町は、きれいで住みやすい町と言えるのだろうか。」と問う中で、身近なごみに着目して考える児童が多く見られた。ワークシートを活用して坂町の実態について話し合い、知りたいことや調べたいことを焦点化し、課題を設定した。

○まずは実地調査！ごみ拾い等のフィールドワークを通して坂町のごみ問題に関する情報収集を行う

実地調査を通して、空き缶やペットボトル等の大きなものから煙草の吸い殻やマスク等の小さなものまで多種多様のごみが落ちていることに気付いた。児童は、「見付かりにくいところにごみが隠れていた。見えないだけで、実はたくさん捨てられていたよ。」「坂町を汚してほしくない。」「自分達にできることって何だろう。」と、得られた情報を基に、話合いを重ねていった。

○調べたことをもとに整理・分析し、 ごみを減らす方法を考え、 表現・まとめる

「ごみを減らすためにはどのような取組が有効なのか」を話合いのテーマとして、班ごとにワークシートを用いて現状を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理を行った。その後、ポスターにまとめて外部（坂町役場、坂駅、坂みみょう保育園等）へ発信していくことにした。

Ⅲ他者との関わりによって、 新たな課題や改善策を見い出す工夫

完成したポスターを坂町役場や坂駅、坂みみょう保育園へ持参し、伝えたい内容が伝わるかを吟味してもらった。「坂駅は、煙草のごみが多いので見た人が意識できるようなポスターにしてもらいたい。」「保育園は、文字よりも絵を見て何がいけないのか分かるようにしてほしい。」等、地域の人々から発信した情報に対する感想やアドバイスをもらい、それらを基にして改善・発展させることができた。

○アンケートや質問紙で実態調査～ポスターの効果はいかに～【ICT 活用】

本校の児童と保護者へ Google アンケートや質問紙における調査を行った結果

- ポスターを見たことがある。
- 地域のごみ問題への関心が高まった

→ 肯定的評価 約 50%

児童が予想していたよりもポスターは認知されていなかったことから、「ポスターは見ないと伝わらない。自分たちの言葉で直接、地域の人々に発信していこう。」と課題を再度、設定した。

Ⅳ坂町のごみを減らすためにさらに「自分たちにできること」 をキーワードに課題設定

坂小学校の児童へは、校内放送をしたり、ちらしを配布したりした。地域の人々へは直接言葉で伝える場を設けることで、地域の方の関心を高めることにつながった。また、坂みみょう保育園から「実際に、散歩へ出かけた際、ごみ袋をもってごみ拾いをしたよ。」という嬉しい知らせが届き、児童は、活動への達成感や満足感を味わうことができた。

横浜小学校　第4学年 「受け継ごう！伝えよう！横浜の宝　ひき船」

Ⅰこれまでの学習を基に、 新たな課題発見・課題設定 ～課題意識をもたせるしかけ～「ひき船って、 本当に横浜の宝なの？」

これまでに学んだ「横浜の良さ」から、まだ知らないことを見付ける中で、聞いたことはあるがほとんど見たことのないひき船があがった。そこから、ひき船は本当に宝なのか？と問いかけ、Jamboard にて思考ツール（X チャート）を活用し、調べたい・知りたいことなどを話し合い、課題を設定した。

○まずは自分たちがくわしくなることから！ゲストティーチャーから情報収集

ひき船に携わる地域の方に来ていただき、ひき船についてくわしく知るために情報を収集した。（～ゲストティーチャーの活用～）
歴史、由来、飾り、かつぎ方、服装、秋祭りとの関係など

○集めた情報を「ひき船は横浜の宝」と言えるのかという視点で分析・まとめ

思考ツール（クラゲチャート）を用いて、ひき船が「宝」と言える理由を分析・交流した。「長い間続いている」「小学生のために作られた子船もある」「秋祭りで行われている」「遠くからも帰ってきてかつぐ人もいる」「みんなの思いがつまっている」など、多様な理由から、「ひき船は長い間、横浜で続いてきた伝統であり、自慢できる宝である」とまとめた。そして、自分たちの学びを、「宝」という視点でレポートにまとめた。（～ ICT の活用～）

Ⅱショックを与え、 危機感をもつことのできる課題設定 ～課題意識をもたせるしかけ～

ひき船についてくわしく知った後、全国的に伝統行事や文化を継承していくことが課題となっていることを、動画や新聞記事で学んだ。坂町も 3 年連続で秋祭りが中止になり、ひき船が担がれていないことから、「ひき船を知らない人も増えているかもしれない」、「認知度も知る必要がある」と考え、アンケートを実施した。

○Google アンケートで実態調査　認知度調査で、ドキリ!! ～ ICT の活用～

本校の児童と 3・5・6 年生の保護者へアンケートを実施した結果…

低学年
- ひき船があることを知らない。
- 学校に子船があることを知らない。
- 秋祭りでひき船を見たことがない。

保護者
- ひき船は続いてほしい（73%）、どちらでもよい（27%）
- 秋祭りでひき船が見られなくて残念（70%）、残念でない（30%）

思っていた以上に知らない児童が多いことや、秋祭りでひき船を見たことのない保護者の方もおり、伝統を受け継ぐ思いに差が見られたことから、**「横浜の宝、受け継ぐために自分たちにできることを考えよう。」**と課題を設定した。

○ゲストティーチャーから情報収集 ～ゲストティーチャーの活用～

伝統を受け継ぐために大切なことを学ぶために、地域の方からお話を伺った。
- 親が大切にしていることは自分も大切にしていきたい。
- ひき船を担ぐのは重いし大変だけど誇りに思っている。
- 大勢で担ぐ一体感・地域のつながりも感じる。だから伝統はつながっている。

○ひき船に対する思いや願い、ひき船の認知度について学習した後、ひき船を受け継ぐために自分たちにできることを考える。 ～ ICT の活用～

誰に、何をするかの視点で、考えを交流した。保護者や低学年、地域の方へ、ひき船や受け継いできた人たちの思いや今の自分たちの思いなどを伝えたいと考えた。

Ⅲ「自分たちにできること」 をキーワードに、 課題設定「ひき船で横浜を元気にしよう」

保護者へは、学習発表参観日で学びを発表した。さらに、クラスで、お知らせ会チーム、パンフレットチームを作り、低学年へお知らせするチーム（ポスター・クイズラリー）とポスターやしおりなどを地域へ配布・掲示するチームに分かれ、実行した。ひき船に携わっている地域の方から喜ばれた。

小屋浦小学校　第5学年 「地域の防災意識アップ！」

Ⅰ昨年度の活動を基にした今年度の学習計画 ～課題意識をもたせるしかけ～「防災カルタを、 どのように地域に広めたい？」

本校では、「平成 30 年に起きた西日本豪雨災害での悲しい出来事を、二度と繰り返したくない」という思いから、これまでにハザードマップや紙芝居を作成し、地域へと広めてきた。これらの防災の取組に触発され、昨年度は、防災カルタを作成した。今年度の当初に、防災カルタに込めた思いや地域に広める目的を確認し、テーマを決めたり計画を立てたりした。

○防災カルタを広めよう～ゲストティーチャーの活用～

小屋浦防災士会の方と連携して、保護者や地域の方を招いてカルタ大会を開いた。また、小屋浦みみょう保育園の防災教室（小屋浦防災士会主催）に参加し、防災カルタをプレゼントした。

○アンケートを分析しよう～ ICT の活用～

カルタ大会後に、本校の児童や地域の方にアンケートを実施した。
- 防災カルタをして楽しかった（96%）
- 防災意識を高められた（95%）
- 初めて知ったことがあった（73%）
- 防災カルタで直したらよいところがある（25%）

読み札を大きな声でゆっくり読んでほしい。
防災について楽しく学べるので、家庭にも配布してほしい。
読み札に書かれていることや、絵札のイラストをじっくりと見たい。

Google フォームを使ってまとめることで、数値や意見をスムーズにまとめることができた。アンケートの結果を基に、カルタの良さや改善点について話し合い、今後に向けての課題を設定した。

Ⅱアンケート結果を生かした学習計画の見直し ～課題意識をもたせるしかけ～「“防災意識が高い” とは？」

アンケート結果から、防災意識が高い姿について考え、「そなえる」「助け合う」「落ち着いて」の 3 つの合言葉にまとめた。アンケートの数字だけにこだわるのではなく、まずは自分たちが合言葉を意識して行動することや、カルタで学んだことを実生活に生かしてもらうことを確認した。

○防災カルタをもっと広めよう～ ICT の活用～

見直した学習計画を基に、グループに分かれて、カルタ配布やカルタ大会の準備を進めた。Google スライドを使って企画書を作成することで、活動のめあてや内容について、具体的に考えさせることができた。また、プレゼンテーション形式の発表会・質疑応答を行うことで、お互いの考えを深め合うことができた。

Ⅲ学習発表会で伝えたいことの検討～課題意識をもたせるしかけ～「目的を達成するために、 発表会をどう生かす？」

カルタを配布したり、カルタ大会を開いたりしていく中で、児童は「もっとカルタを広めたい」「他の地域の防災意識も高めたい」との思いを強くしていった。そこで、多くの保護者や地域の人が集まる学習発表会を“絶好のチャンス”ととらえ、発表の内容や方法について精選した。

○発表会で伝えたいことを考えよう～ゲストティーチャーの活用～

Jamboard を使って、発表会で伝えたいことを検討した。「防災カルタを作ったきっかけ」「老人ホームや公民館を訪れ、一緒にカルタをしたこと」「未来の町の姿」など、様々な意見が出た後に、防災士の方から講評していただき、「防災で一番大事なことは、日頃から地域の人とつながること」という新しい視点を得ることができた。

○地域の方に伝えよう～ ICT の活用～

学習発表会では、小屋浦防災士会と協力して作った「AI 読み上げカルタ」や「カルタ 4 択クイズ」を紹介した。また、自分たちが考えた防災の具体策や合言葉について、スライドを使いながら伝えることができた。発表会後には、小屋浦防災士会の方から、直接感想をいただき、自分たちの思いが伝わったことを実感した。さらに、学校のホームページに、防災カルタとカルタ 4 択クイズを掲載し、いつでも誰でも活用できるようにした。